

# 日本気象学会 2006年度秋季大会

会期：2006年10月25日（水）～27日（金）

会場：ウィルあいち（名古屋市東区上堅杉町1番地，<http://www.will.pref.aichi.jp/>）

大会実行委員会担当機関：名古屋地方気象台，名古屋大学，愛知教育大学，中部航空地方気象台，  
（財）日本気象協会東海支社

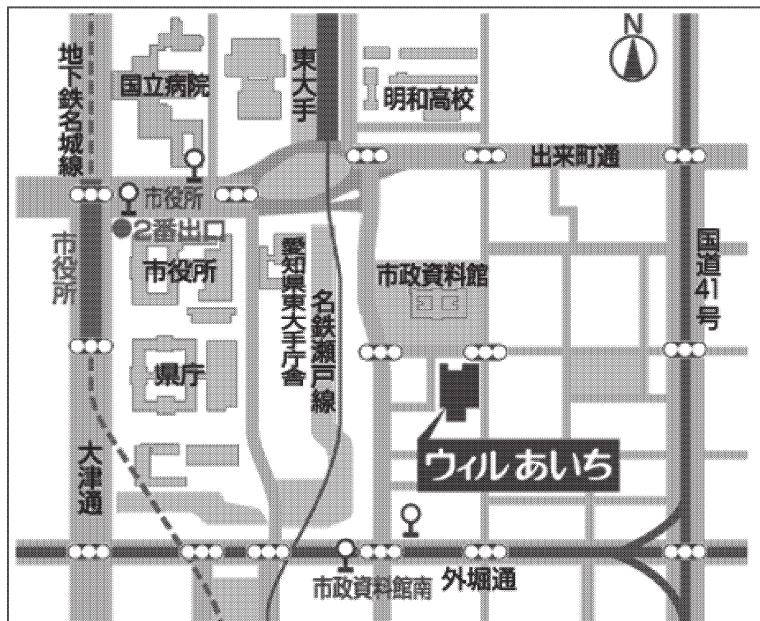
大会委員長：湯田憲一（名古屋地方気象台）

当日の会場への連絡先：大会実行委員会事務局（ウィルあいち会議室1）  
TEL・FAX 052-971-9501（学会開催期間のみ有効）  
※大会参加者への伝言（FAXも含む）は受付付近の掲示板に掲示します。  
取次ぎはいたしませんのでご承知おきます。

## 交通の案内

- ・「名古屋」駅から，地下鉄東山線に乗りし，「栄」駅乗換，地下鉄名城線「市役所」駅下車2番出口より東へ徒歩約10分
- ・「名古屋」駅から，地下鉄東山線に乗りし，「栄」駅下車後，名古屋鉄道「栄町」駅から瀬戸線に乗りして「東大手」駅下車南へ徒歩約8分
- ・基幹バス「市役所」下車，東へ徒歩約10分

## 会場案内図



## 大会行事予定

A会場 : ウィルホール (4階)  
 B会場 : 大会議室 (3階)  
 C会場 : セミナールーム1・2 (1階)  
 D会場 : 特別会議室 (2階)  
 ポスター会場 : 会議室4・5・6・7 (3階)

シンポジウム・各賞授与式会場 : ウィルホール (4階)

受付 : ウィルホール前 (4階)  
 大会事務局 : 会議室1 (3階)  
 懇親会 : アパホテル名古屋錦 (名古屋市中区錦3-15-30)

( ) は講演数, - は座長

		A会場	B会場	C会場	D会場
10月 25日 (水)	09:45～ 12:30	スペシャルセッション 「2005/06 年の異常な冬 について」I (12, A101～A112) -猪上 淳- -本田明治-	気候システム I (12, B101～B112) -尾瀬智昭-	熱帯大気 (11, C101～C111) -橋口典子-	大気化学・物質輸送 (10, D101～D110) -出牛 真-
	13:30～ 17:00	スペシャルセッション 「2005/06 年の異常な冬 について」II (15, A151～A165) -高谷康太郎- -中村 尚-	スペシャルセッション 「高解像度気候モデルに よる中層大気研究の 可能性」 (15, B151～B165) -河谷芳雄- -渡辺真吾-	雲物理 (8, C151～C158) -田尻拓也- 降水システム I (8, C159～C166) -川畑拓矢-	エアロゾル (8, D151～D158) -内山明博- 観測手法 (7, D159～D165) -石井昌憲-
	17:00～ 18:00	ポスター・セッション (90, P101～P190)			
10月 26日 (木)	09:30～ 12:00	気象予報 (11, A201～A211) -山根省三-	気候システム II (11, B201～B211) -渡部雅浩-	降水システム II (11, C201～C211) -岩崎博之-	気象教育 (2, D201～D202) -岩山隆寛- 中層大気 (2, D203～D204) -岩山隆寛- 大気力学 (6, D205～D210) -岩山隆寛-
	13:00～ 13:30	山本正野論文賞・堀内賞・奨励賞授与			
	13:40～ 15:10	山本正野論文賞・堀内賞記念講演			
	15:20～ 17:45	シンポジウム「台風 -伊勢湾台風から50年を経て-」 司会: 上田 博 基調講演: 村松照男, 林 泰一, 中澤哲夫, 坪木和久, 杉 正人			
	18:30～ 20:30	懇親会			
10月 27日 (金)	09:30～ 11:30	スペシャルセッション 「惑星大気の科学」I (9, A301～A309) -伊賀晋-	気候システム III (9, B301～B309) -西森基貴-	台風 (8, C301～C308) -別所康太郎-	相互作用 (8, D301～D308) -青木輝夫-
	11:30～ 12:30	ポスター・セッション (90, P301～P390)			
	13:30～ 16:45	スペシャルセッション 「惑星大気の科学」II (12, A351～A362) -小高正嗣- -高橋芳幸-	気候システム IV (14, B351～B364) -馬淵和雄- -村上茂教-	スペシャルセッション 「台風災害への対応を 考える」 (9, C351～C359) -弘中秀治-	環境気象 (6, D351～D356) -近藤裕昭- 大気境界層 (8, D357～D364) -大塚清敏-

発表件数: 412件 (口頭発表232, ポスター180)

口頭発表の講演・質疑時間: 9分と3分

当大会予稿集に掲載された研究発表の文章・図表を複製あるいは翻訳して利用する場合には、日本気象学会の文書による利用許諾を得た上で出所明示して利用しなければなりません。ただし著作者自身による利用の場合は、利用許諾の申請は不要です。

本プログラムの記載内容に関する問い合わせは、〒305-0052茨城県つくば市長峰1-1気象研究所予報研究部内 講演企画委員会 (e-mail:msj06a@mri-jma.go.jp) まで

## 大会参加費・懇親会費

### 1. 支払方法

- 郵便振替による前納（用紙は「天気」6月号に添付）、または当日受付によります。

### 2. 大会参加費

- 大会参加費は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者A	8,000円	9,000円
講演者B	5,000円	6,000円
聴講者	3,000円	4,000円

- 講演者の種別：

講演者A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者B：講演者Aに該当しない講演者

- 講演件数が2件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。
- シンポジウムのみに参加する場合は、参加費は無料です。

### 3. 懇親会費

- 懇親会費は以下の表の通りです。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000円	6,000円
学生	3,500円	4,500円

### 4. 前納期日

- 前納の場合は9月19日（火）までにお支払下さい。それを過ぎた場合は当日払いとなります。

### 5. その他

- 一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。
- 参加費・懇親会費には会員・非会員の区別はありません。
- 非会員も規定の参加費・懇親会費をお支払い頂ければ大会・懇親会に会員と同様に参加することができます（ただし、非会員の大会での講演にはある条件を満たすことが必要です。詳細は「非会員による大会での継続的な講演について」をご参照下さい。）。

## 講演の方法

### 1. 口頭発表

- 1件当たりの発表時間は、講演時間9分・質疑時間3分です。
- スペシャルセッションの発表時間については世話人からの指示に従ってください。
- 講演の際にはPCプロジェクターとOHPが使用できます。
- OHPの使用を希望する場合は、必ず当該セッション開始前の休憩時間に当該会場で会場係へその旨を申し出て下さい。
- PCプロジェクターを使用する際は予め以下の点をご了承ください。
  - パソコンは各自で準備して下さい。会場にはプロジェクターおよび接続ケーブルのみを準備します。
  - セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。また接続が不安な場合は、開始前に会場係に申し出て下さい。
  - 突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順を繰り下げたり、OHPによる発表に

切り替えさせて頂くことがあります。このため、最低限の発表が出来るだけのOHPシートも用意しておいて下さい。

### 2. ポスター発表

- ポスター発表の一人当たり使用可能面積は、縦120cm × 横90cm（A0サイズを縦に貼ることができる）程度となります。
- ポスターの掲示の際、押しピン・テープ類が使用可能です。これらは発表者自身で準備してください。
- ポスターの掲示可能時間は以下の通りです。特に撤去時間については厳守願います。
  - 第1日の発表者は10月25日9:00～10月26日12:30
  - 第3日の発表者は10月26日12:30～10月27日14:00
- ポスター会場での機器の使用は講演申し込み時に申し出たもの以外は原則として認められません。

## 保育施設の斡旋について

大会に参加される会員のために、大会実行委員会では保育施設の斡旋を行います。また、保育施設利用料の一部補助についても検討中です。利用を希望される方、あるいは情報提供を希望される方は、10月6日（金）までに下記の担当者までご連絡ください。

連絡先：伊藤 浩（名古屋地方気象台）

TEL：052-751-5124, FAX：052-752-3357, E-mail：h-itou@met.kishou.go.jp

## シンポジウム「台風 —伊勢湾台風から50年を経て—」

日時：大会第2日（10月26日） 15:20～17:45

会場：ウィルホール（大会A会場）

司会：上田 博（名古屋大学地球水循環研究センター）

※シンポジウムの聴講は無料です

### 趣旨：

3年後に伊勢湾台風から50年目をむかえる。伊勢湾台風の被害が最も大きかった中部地区で日本気象学会秋季大会が行われる機会に、伊勢湾台風から50年の経過を振り返り、わが国におけるその後の防災体制の整備及び台風に関する研究の発展の現状を理解したい。

近年、大型台風の襲来と地球温暖化の関係が議論されている。被害で見た台風の理解を深め、台風の予報システムの将来について議論し、台風の構造に関する最近の研究を把握するとともに、地球温暖化によって台風が変わる可能性があるかどうかについて、議論を深める機会を提供する。

### 基調講演

- |                             |                        |
|-----------------------------|------------------------|
| 1) 「台風防災の原点、伊勢湾台風から50年」     | 村松照男（気象業務支援センター）       |
| 2) 「台風により発生する被害の変遷」         | 林 泰一（京都大学防災研究所）        |
| 3) 「台風のための双方向予報システムの構築に向けて」 | 中澤哲夫（気象研究所台風研究部）       |
| 4) 「雲解像モデルで見た台風の構造」         | 坪木和久（名古屋大学地球水循環研究センター） |
| 5) 「温暖化で台風はどうなるか」           | 杉 正人（気象研究所予報研究部）       |

### 総合討論

---

## スペシャルセッション「2005/06年の異常な冬について」

日時：大会第1日（10月25日） 09:45～12:30, 13:30～17:00

会場：ウィルホール（大会A会場）

世話人：平沢尚彦（国立極地研究所）、本田明治（地球環境フロンティア研究センター）、猪上 淳（地球環境観測研究センター）、高谷康太郎（地球環境フロンティア研究センター）、中村 尚（東京大学理学系研究科/地球環境フロンティア研究センター）

### 趣旨：

2005年/06年の冬の天候は、極めて特徴的なものとなった。すなわち、12月を中心とする冬の前半の大寒波及び日本海側の大雪と、一転して後半の暖冬とである。冬季の極東域のこのような変動は、学術的な興味が大いのみならず、社会的な影響も非常に大きい。したがって、極東付近の冬季の変動の原因を特定、解明することは極めて重要である。このことは、冬の長期予報の精度向上にもつながると期待される。そこで、2005/06年の冬季を中心に、極東付近の冬季の変動に関する研究をまとめて発表議論する場が必須と考え、このセッションを計画した。数値モデル、予報、観測そしてデータ解析など、幅広い分野からの多数の研究者の参加を期待している。

---

## スペシャルセッション「高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性」

日時：大会第1日（10月25日） 13:30～17:00

会場：大会議室（大会B会場）

世話人：佐藤 薫（東京大学大学院理学系研究科）、高橋正明（東京大学気候システム研究センター）、渡辺真吾（地球環境フロンティア研究センター）、富川喜弘（国立極地研究所）、河谷芳雄（地球環境フロンティア研究センター）

### 趣旨：

計算技術の進歩により、気候モデルも高解像度時代を迎えた。高解像度気候モデルは、熱帯で特に重要な対流雲等小規模擾乱を再現し、これにより、主に対流圏大気気候研究の飛躍的発展が期待されている。一方、積雲と同様パラメタリゼーションにより表現されることの多かった重力波等小規模擾乱も陽に表現できるようになったことから、高解像度モデルの中層大気科学研究への応用もタイムリーであると思われる。また、大規模風速場による移流が物質分布の薄層化・混合をもたらすという従来の成層圏物質輸送・混合過程の概念は、重力波等小規模擾乱を陽に表現する高分解能モデルでも成り立つの

かどうか、明らかではない。そこで、このセッションでは、高解像度気候モデルを用いた先行研究、重力波パラメタリゼーション、ラジオゾンデや衛星等による観測事実、重力波以外の小規模擾乱の重要性などについて、レビューを中心に、新しい関連研究の発表も加え、高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性について議論したい。

## スペシャルセッション「惑星大気の科学」

**日時** : 大会第3日 (10月27日) 09:30~11:30, 13:30~16:45

**会場** : ウィルホール (大会A会場)

**世話人** : 中島健介 (九州大学大学院理学研究院)

**趣旨** :

近年、金星や火星、木星などの惑星大気に関する研究に多くの進展がみられる。アメリカによる火星探査、ヨーロッパや日本による金星探査計画が実行段階にあるだけでなく、望遠鏡を用いた惑星大気の地上観測にも関心が集まっており、新たな観測事実も蓄積されつつある。この特別セッションでは、惑星大気に関する研究の現状を整理し、今後の展望を議論したい。

## スペシャルセッション「台風災害への対応を考える」

**日時** : 大会第3日 (10月27日) 13:30~16:45

**会場** : セミナールーム1・2 (大会C会場)

**世話人** : 弘中秀治 (日本気象予報士会)、植松久芳 (日本気象予報士会)、伊藤 浩 (名古屋地方気象台)、岩田 修 (日本気象予報士会)、白石晶二 (日本気象予報士会)

**趣旨** :

2004年は台風の当たり年で、過去最多の10個が本邦に上陸し、全国的に多くの被害が発生した。また、2005年に入って上陸数は比較的少なかったものの、台風0514は、記録的短時間大雨情報の基準に達しないまま各地の総雨量を多数記録更新するという、特異な台風であった。一方、北米においては、ハリケーン・カトリーナの予報はほぼ的中したにもかかわらず、未曾有の大災害が発生したことは、よく知られている。本スペシャルセッションにおいては、こうした台風について、①台風予測の実際と反省 (特に災害発生が想定されるエリアの特定など)、②台風予報 (警報・注意報) の発表のありかた、③台風情報の報道・伝達のありかた (伝達者側の問題点など)、④台風情報の利用・活用 (利・活用者側としての問題点など)、⑤台風時の防災活動の現場の実際といった切り口での発表を募り、今後の台風防災のための研究対応について資を得ることとしたい。

## 研究会のお知らせ

大会期間中とその前後に以下の研究会が予定されています。興味のある方はご自由にご参加下さい。

### 第27回メソ気象研究会

**日時** : 2006年10月24日 (火) (大会前日) 13:30~17:00

**場所** : ウィルあいちセミナールーム1・2 (大会C会場)

**テーマ** : 「宇宙から観る雲と雨」

**コンビーナー** : 増永浩彦 (名大地球水循環)

**内容** : メソスケールから総観・惑星規模にわたる雲・降水過程の階層構造の全貌を理解する上で、衛星観測は重要な研究手段の一つである。とくに、地上観測ネットワークの及ばない熱帯海洋上などの地域では、衛星モニタリングは欠かせない観測手段といえる。過去10年のあいだに、地球観測衛星史上特筆すべき画期的な進歩が相次いだ。日米協力プロジェクトである熱帯降雨観測計画 (TRMM) や米国AQUA衛星が軌道に乗り、また本年4月には米国のCloudSat衛星が打ち上げられた。こういった技術革新を受け、衛星リモートセンシングによる雲・降水気象/気候学研究は大きく前進しつつある。今回のメソ気象研究会では「宇宙から観る雲と雨」と銘打ち、衛星観測研究の最前線で活躍する中堅・若手研究者を講師に招いて、地球にあまねく分布する雲・降水システムの最新像に迫りたい。また、メソ気象学と衛

星観測が共有し得る問題意識を改めて探り、今後の新しい研究の可能性を議論したい。

**プログラム** (講演順序および講演題目には若干の変更の可能性あり) :

1. 趣旨説明  
増永浩彦 (名大地球水循環)
2. マイクロ波放射計による降水観測とデータ同化  
青梨和正 (気象研)
3. 衛星搭載降雨レーダによる潜熱加熱プロファイル推定  
重 尚一 (大阪府大院工)
4. 衛星搭載降雨レーダによる降水システムの地域特性  
広瀬正史 (JAXA/EORC)
5. CloudSat衛星と領域/全球雲解像モデル: 現状と将来展望  
鈴木健太郎 (東大気候システム)

総合討論

**世話人** : 坪木和久 (名大地球水循環)、加藤輝之 (気象研)、小倉義光 (東大海洋研)

**連絡先** : 増永浩彦 (名古屋大学地球水循環研究センター)

E-mail : masunaga@hyarc.nagoya-u.ac.jp



## 極域・寒冷域研究連絡会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）18:15～2時間程度

場所：ウィルあいちウィルホール（大会A会場）

話題：豪雪を語る

「豪雪・寒冬研究の系譜（成果と反省）、問題点、および、今なすべきこと」 二宮洗三（FRCGC）

今回の極域・寒冷域研究連絡会は、「豪雪を語る」と題して、元気象庁長官の二宮洗三氏の講演会を行います。2005/2006年の冬は、12月を中心に記録的に寒く、日本海側は大雪に見舞われたことはまだ記憶に新しいところです。今冬の豪雪は20年ぶりとも言われましたが、過去には、38豪雪や56豪雪などと言われるような例もありました。そのような過去の例も含め、豪雪関係の話題を提供して頂く予定です。豪雪には、半球規模、総観規模、メソスケールの大気循環や、SST、水蒸気供給など、多様な要素が関係しています。豪雪の議論を通じて様々な分野の研究者が交流できる場を設け、気象現象の理解を深める機会にしたいと考えています。

代表：山崎孝治（北大院地球環境）

世話人：平沢尚彦（極地研）、中村 尚（東大院理）、浮田甚郎（千葉大CEReS）、高田久美子（FRCGC）、阿部彩子（東大気候システム）、佐藤 薫（東大院理）、本田明治（FRCGC）、齋藤冬樹（FRCGC）、猪上 淳（IORGC）、高谷康太郎（FRCGC）

URL：http://polaris.nipr.ac.jp/~pras/coolnet/cl\_index

連絡先：高谷康太郎（FRCGC）

TEL：045-778-5526, FAX：045-778-5707,

E-mail：takaya@jamstec.go.jp

## THORPEX研究連絡会 第3回研究集会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）18:00～20:00

場所：ウィルあいち大会議室（大会B会場）

テーマ：気象水文データを利用した水害予測

内容：THORPEXは、2週間先までの予測改善をめざす科学的ミッションではあるが、これまでのプロジェクトと比較して、水管理、農業、電力、交通など多様な分野への応用に力点が置かれている。例えば、西アフリカでのマリアア予測がパイロットプロジェクトとして検討されている。今回は、近年多発している水害を軽減するために、THORPEXの成果をどのように利用するか検討したい。そこで、水害予測分野で活躍されている研究者から、水害予測の現状や、THORPEXへの期待などについてお話をうかがうとともに、気象庁のアンサンブル予報についても最新の話題を提供してもらい、水害予測への確率的な気象予測の利用について議論したい。THORPEX研究連絡会としては、今後もその基礎となる気象力学の分野での研究交流を進めるとともに、社会的・経済的な応用分野にも広く視野を広げた研究会活動を進めていきたいと考えている。

プログラム（講演順序、講演題目に変更の可能性あり）

1. MPレーダ雨量情報を利用した都市型水害の予測  
真木雅之（防災科研）
2. 実用的な洪水予報と時間空間スケールについて  
立川康人（京大防災研）
3. 水文分野における実時間洪水予測について  
沖 大幹（東大生産研）
4. アンサンブル数値予報による確率的な気象予測  
～台風事例を中心として～  
経田正幸（気象庁数値予報課）

総合討論

世話人：余田成男、中澤哲夫、木本昌秀、向川均、榎本剛

連絡先：榎本剛 E-mail：eno@jamstec.go.jp,

TEL：045-778-5867, FAX：045-778-5492

## オゾン研究連絡会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）セッション終了後から2時間程度

場所：ウィルあいちセミナールーム1・2（大会C会場）

内容：今回は成層圏オゾンに関連の深い以下の2件のご講演を予定しております。ご関心をお持ちの方は是非ご参集下さい。

1. 「オゾン層破壊の科学的アセスメント：2006年」とオゾン層の将来予測について  
発表者：柴田清孝（気象研）  
要旨：4年ごとにWMO/UNEP/NOAA/NASA/ECがスポンサーとなって発刊されるオゾン層破壊に関する科学的アセスメントの6冊目になる2006年版「オゾン層破壊の科学的アセスメント：2006年」についての簡単な紹介とそこで引用されている世界各国の化学-気候モデルによるオゾン層の将来予測について述べる。

2. JEM/SMILES の現状と展望

発表者：塩谷雅人（京大生存研）

要旨：国際宇宙ステーション（ISS）の日本実験棟（JEM）曝露部に搭載予定のSMILES（Superconducting Submillimeter-Wave Limb Emission Sounder）は、2008年度の打ち上げを目指して準備が進められている。ここではその取り組み状況と予想される科学成果について述べる。

世話人：笠井康子（NICT）、川上修司、河本 望（JAXA）、永島達也（環境研）、庭野将徳（FRCGC）、村田 功（東北大院環境科学）

連絡先：村田 功（東北大院環境科学）

TEL：022-217-5776, FAX：022-217-5775,

E-mail：murata@pat.geophys.tohoku.ac.jp

## 第1回統合的陸域圏研究連絡会

日時：2006年10月25日（水）（大会第一日）18:00～20:00

場所：ウィルあいち特別会議室（大会D会場）

内容：「統合的陸域圏研究連絡会」においては、陸面を中心とする大気境界層から土壌内に渡る陸域圏を研究の主な対象とし、そこにおける物理的、生物的諸過程の理解に向けた、広い視野に立った研究のための情報交換、陸域圏を対象とした基礎的なメカニズムの理解と、他の圏との広域的・長期的相互作用システムの解明、直接観測、間接観測、およびモデリングの融合、空間的・時間的スケール間ギャップの問題の解決への方向性の探求、正確な現状の認識と、実質的に意味のある手法の開発に向けた努力、およびそれらのための研究協力関係の構築を目的としています。今回は2名の招待講演者による講演を中心に研究会を開催いたします。

講演者：1. Georgii Alexandrov（環境研）

2. 佐々井崇博（産総研）

世話人：馬淵和雄（気象研）、大谷義一（森林総研）、青木

輝夫（気象研）、西田顕郎（筑波大）、伊藤昭彦（環境研）

代表連絡先：馬淵和雄（気象研）

TEL：029-853-8609, FAX：029-855-2552,

E-mail：kmabuchi@mri-jma.go.jp

### 公開座談会「防災気象情報をどう活かすか」

日時：2006年10月27日（金）（大会最終日）18:00～20:30

場所：ウィルあいちセミナールーム1・2（大会C会場）

副題：減災文化を定着させるために

内容：この座談会においては、気象警報類を意思決定のためにいかにブレイクダウンするか、防災情報をいかにわかりやすく伝えるか、受け手側の活用方法、気象災害から身を守るための知識の普及及び防災訓練のあり方、などの観点から、現状におけるそれぞれの問題点等を列挙整理した上で、その対応策並びに住民コミュニティにおける減災文化の育成・定着について検討し、参加者の皆様の今後の研究活動の資としていただきたいと思えます。進め方としては、このテーマに関しての各種の切り口から所信を表明する5名程度のパネラーを設定し、司会者による進行の下にパネルディスカッションを行いつつ、会場参加者との意見交換を行うことを予定しています。これは、言い直せば、気象の研究成果は、防災面において、実社会にいかんに反映されるべきか、反面、実用のための気象研究はいかなる点に着目して行われるべきか、などを参加者全員で考えてみようという試みでもあります。どなたでもお気軽にご参加のうえ、ご発言下さい。

世話人：植松久芳（NPO法人ウェザーフロンティア東海）、伊藤 浩（名古屋地方気象台）、弘中秀治（宇都市役所）、岩田 修（気象予報士会）、白石晶二（気象予報士会）

連絡先：白石晶二（気象予報士会）

TEL：042-375-9565（FAX共通）

Email：wxdream02@nifty.com

### 国際的な地球環境研究の動向と国内における今後の連携について—日本学術会議「IGBP/WCRP分科会」の設置を機会に—

日時：2006年10月27日（金）（大会最終日）セッション終了後から1時間程度

場所：ウィルあいち特別会議室（大会D会場）

内容：今年度、日本学術会議の改組に伴い、国際対応組織として環境学委員会に、「IGBP/WCRP分科会」が設置されました。委員会設置の経緯や今後の活動方針などについて、関連の深い気象学会会員に周知し、広く意見を伺いたく、今回の説明会を開催します。IGBP（地球圏生物圏国際協同研究計画）、WCRP（世界気候研究計画）の活動に参加されている諸氏はもとより、関心のあるすべての学会員に参加をよびかけます。

世話人代表：安成哲三（WCRP - JSC委員）

世話人：林田佐智子（WCRP/SPARC SSG委員、気象学会理事）、時間達志（WCRP/CLIVER SSG委員）、松本淳（WCRP/GEWEX SSG委員）、大畑哲夫（WCRP/CLIC SSG委員）

---

## 講演企画委員会からのお知らせ

### 理事長学術講演の延期について

木田秀次第34期理事長による学術講演につきましては、木田理事長の体調がすぐれないために延期されることになりました。

### 非会員による大会での継続的な講演について

最近、非会員のままで継続して大会での講演を行うケースが少なからず見受けられます。特に教官との共著で講演を行う学生や院生の方が多いようですが、一般の方もおられるようです。大会での講演は気象学会会員としての貴重な権利であり、「共著者に会員がいる場合は非会員の大会での講演を認める」という規定は、あくまでも短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において一時的に講演を行う場合の特例です。これまでもお願いしてきましたが、気象学会において継続的に講演を行いたい場合には会員になって頂くように強く望みます。

---

## 2007年度春季大会の予告

2007年度春季大会は、2007年5月13日（日）～16日（水）に国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区代々木）で開催される予定です。大会告示は「天気」12月号に掲載予定です。なお、春季大会の講演申し込み締め切りは2007年2月頃となる予定です。

## 大会第1日〔10月25日(水)〕 A会場

( )は講演者を表す。[OHP]はOHPを使用する講演を示す。

## 午前 (09:45 ~ 12:30)

スペシャルセッション「2005/06年の異常な冬について」I

座長：猪上淳 (IORGC)

- A101 中井専人・岩本勉之(防災科研)他3名 2005/2006  
冬季に中越地域近辺で観測された降雪系
- A102 石坂雅昭・中井専人(防災科研)他4名 新潟県中越  
における降雪分布と降雪モード・降雪粒子の関係
- A103 山口悟・佐藤篤司(防災科研) 積雪構造からみた平  
成18年豪雪の特徴
- A104 岩本勉之・中井専人(防災科研)他2名 2005/2006  
年冬季の降雪パターンと風との関係
- A105 加藤輝之・林修吾(気象研) 雲解像モデルが予想し  
た雲頂高度から見た2005年12月の豪雪-積乱雲の  
潜在的発達高度との整合性について-
- A106 渡邊明(福島大理工) 2006年冬季の東北地方の降雪  
特性

座長：本田明治 (FRCGC)

- A107 遊馬芳雄(北大院理)・吉田聡(地球シミュレータ)  
2005/06年冬季の爆弾低気圧の特徴
- A108 大野祐子(海洋大院)・岩坂直人(海洋大/JAMSTEC)  
北太平洋中緯度域における混合層の年々変動
- A109 立花義裕(東海大/IORGC)・高野陽平(東海大理)  
熱源・水蒸気源解析からみた2005年12月の日本海・  
オホーツク海および大気大循環の異常
- A110 張寅生(IORGC) Recent Changing in Snow Cover  
in Mongolia and its possible hydrological consequence  
[OHP]
- A111 杉浦幸之助・門田勤(IORGC)他9名 2002-2006年  
モンゴル・トール川流域積雪調査
- A112 飯島慈裕・遠藤伸彦(IORGC)他3名 2005/2006年  
冬季の東シベリア・モンゴル地上観測結果

## 午後 (13:30 ~ 17:00)

スペシャルセッション「2005/06年の異常な冬について」II

座長：高谷康太郎 (FRCGC)

- A151 猪上淳・菊地隆(IORGC) 2005年の北極海における  
海水減少-パイ観測から-
- A152 本田明治(FRCGC)・猪上淳(IORGC) 冬季日本の  
寒さにかかわる夏季北極海の海水面積異常
- A153 楠昌司(気象研)・共生プロジェクト課題4 全球モデ  
ルグループ 20km 格子全球大気モデルによる冬季  
東アジアモンスーンの再現性
- A154 宮崎千尋(地球研)・安成哲三(名大地球水循環) ア  
ジアにおける冬季地上気温の主要モードからみた  
2005/06年の日本の寒冬の原因
- A155 久保田尚之・清木亜矢子(IORGC)他6名 熱帯西部  
太平洋で観測した2005/06年冬季の多雨とMJOに  
伴う降雨帯の北偏について
- A156 森正人・小山博司(北大院地球環境)他1名 2005年  
12月の「北極振動」の励起と予測可能性
- A157 田中博(筑波大計算科学)・加藤真吾(筑波大自然)  
順圧大気大循環モデルによる北極振動指数の予測-  
2005年12月の事例解析-
- A158 高谷康太郎(FRCGC)・中村尚(東大院理/FRCGC)  
冬季東アジアモンスーンと熱帯SSTとの関連につい  
て

座長：中村尚 (東大院理/FRCGC)

- A159 小寺邦彦(名大院環境)・K. Krüger (Kiel Univ.)  
2005/06年冬の寒波と成層圏循環
- A160 西井和晃・中村尚(東大院理) 2006年1月の成層圏  
突然昇温期間中の対流圏循環偏差場の特徴
- A161 一丸知子(九大院理)他 2005/06年北半球冬季の成  
層圏突然昇温とその予測可能性
- A162 向川均(京大防災研)・廣岡俊彦(九大院理)他1名  
成層圏突然昇温の前駆現象に関するGCM数値実験
- A163 松枝未遠(筑波大院生命環境)・経田正幸(気象庁数値  
予報)他2名 マルチセンターグランドアンサンブル  
の日別予報成績-2005年12月の事例解析-
- A164 稲葉守生・小寺邦彦(気象研) 全球大気モデルによ  
る2005年12月の予報における初期値及び海面水温  
依存性
- A165 前田修平・佐藤均(気象庁気候情報)他2名 2005年  
12月の偏西風の異常とその1か月数値予報



## 大会第1日〔10月25日(水)〕 B会場

( )は講演者を表す

## 午前 (09:45 ~ 12:30)

## 気候システム I

座長：尾瀬智昭 (気象研)

- B101 美山透・杉浦望実(FRCGC)他8名 4D-VAR 結合同化手法を用いた気候変動研究-インド洋ダイポールモードを解析例として-
- B102 望月崇・杉浦望実(FRCGC)他9名 四次元変分法を用いた結合データ同化システムによる 97/98 エルニーニョ再現実験
- B103 尾瀬智昭(気象研) CEOP 地上観測地点データを利用した JRA-25 再解析データの検証
- B104 高橋清利(気象研)・釜堀弘隆(気象庁気候情報)他2名 JRA-25 同化システムによる SSM/I 可降水量同化の効果
- B105 千葉長(気象研)・釜堀弘隆(気象庁)他2名 JRA-25 同化システムによる SSM/I 可降水量同化の効果-その2(緯度帯で見た違い)
- B106 井上智重・植田宏昭(筑波大院生命環境) 高解像度衛星データを利用したベンガル湾の日変化に見られる大気-海洋結合過程
- B107 中澤哲夫(気象研) 台風の日本上陸・接近とエルニーニョ現象との関連について
- B108 吉村純(気象研)・大内和良(AESTO/気象研)他4名 20km 格子全球大気モデル実験における台風 - AMIP 型 20 年積分における ENSO との関係
- B109 渡部雅造・樋口麻衣(北大院地球環境) AGCM と CRM を用いた夏季中緯度海洋上の下層雲のオフラインシミュレーション(続): メソスケール対流の効果
- B110 見延庄士郎(北大院理) 黒潮・親潮統流域における 01/02 年水温低下の大気への影響
- B111 木村富士男(筑波大院生命環境)・鬼頭昭雄(気象研) 温暖化によるトルコにおける積雪水量の変化
- B112 森岳史(日大院総合基礎科学) 東南アジアモンスーンが北半球の大気場へ及ぼす影響

## 午後 (13:30 ~ 17:00)

## スペシャルセッション「高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性」

座長：河谷芳雄 (FRCGC)

- B151 佐藤薫(東大院理)・高橋正明(東大気候システム)他3名 高解像度気候モデルによる中層大気研究の可能性
- B152 萩野慎也(IORGC/神戸大院自然) ラジオゾンデ観測による成層圏重力波の研究
- B153 中村卓司(京大生存圏研)・塩川和夫(名大STE研)他2名 地上からの光学・電波による中間圏重力波の観測
- B154 津田敏隆(京大生存研) 成層圏における大気重力波の GPS 掩蔽観測
- B155 Luce Hubert (Toulon South Univ.)・深尾昌二郎(京大生存研)他2名 High-resolution observations of the lower atmosphere with the MU radar using multi-frequency range imaging
- B156 渡辺真吾(FRCGC) 重力波抵抗パラメタリゼーション関連のレビュー
- B157 柴田清孝(気象研) 重力波パラメタリゼーションと QBO

座長：渡辺真吾 (FRCGC)

- B158 宮原三郎(九大院理) 慣性重力波にも適用可能な 3次元 Wave Activity Flux
- B159 河谷芳雄(FRCGC)・高橋正明(東大気候システム)他3名 大気大循環モデルを用いた内部重力波の解析
- B160 堀之内武(京大生存研) 大気重力波と熱帯中層大気の高解像度モデリング
- B161 杉本憲彦(名大院工)・石岡圭一(京大院理)他1名 ジェットから出る重力波 - レビュー及び簡略化モデルを用いた研究成果 -
- B162 稲津将・木本昌秀(東大気候システム)他1名 温暖化気候における成層圏突然昇温
- B163 水田亮(AESTO)・楠昌司(気象研)他1名 20km 格子全球大気モデルにおける成層圏・対流圏間輸送
- B164 宮崎和幸・渡辺真吾(FRCGC)他1名 高解像度気候モデルを用いた上部対流圏-下部成層圏での物質輸送過程の研究
- B165 富川喜弘(極地研)・佐藤薫(東大院理)他3名 極渦時間発展の改良ラグランジュ平均解析

## 大会第1日〔10月25日(水)〕 C会場

( )は講演者を表す)

## 午前 (09:45 ~ 12:30)

## 熱帯大気

座長：橋口典子 (京大生存研)

- C101 中澤哲夫(気象研)・内山達(JST)他1名 TRMM 3G68 データに見る PR と TMI の降水量推定差について
- C102 伍培明・佐々木太一(IORGC)他3名 カリマンタン島における局地循環及び雲対流の日変化
- C103 山本真之・堀之内武(京大生存研)他5名 赤道大気レーダー (EAR)による熱帯上部対流圏の鉛直観測
- C104 M. Venkat Ratnam・津田敏隆(京大生存研)他2名 Modulation of tropopause temperature structure revealed by simultaneous radiosonde and CHAMP GPS measurements
- C105 小石和成・塩谷雅人(京大生存研) CEPEX 期間にみられた熱帯対流圏界面の構造と水蒸気変動との関係性
- C106 橋口典子・塩谷雅人(京大生存研) 熱帯対流圏界面領域における温度・高度場半年周期成分の空間構造
- C107 鈴木順子・塩谷雅人(京大生存研) ERA-40 データをもちいた赤道対流圏界面付近にみられるケルビン波の時空間分布とその要因
- C108 増永浩彦(名大地球水循環)・Tristan L' Ecuyer (CSU)他1名 対流と結合したケルビン波、赤道ロスビー波、および Madden-Julian 振動の観測的研究
- C109 清水重矢子(IORGC)・高藪緑(東大気候システム)他7名 ENSO 位相の異なる 2000, 2001 年冬季における MJO に伴う擾乱の比較
- C110 近本喜光・向川均(京大防災研)他5名 熱帯季節内振動に伴う不安定振動の力学的特徴
- C111 佐藤健介・山崎孝治(北大院地球環境) Hadley 循環強化の力学的解析

## 午後 (13:30 ~ 17:00)

## 雲物理

座長：田尻拓也 (気象研)

- C151 村上正隆(気象研) 渇水対策のための人工降雨・降雪に関する総合的研究 - 研究計画概要とシーディング戦略 -
- C152 村上正隆・折笠成宏(気象研) 黄砂粒子が山岳性降雪雲の内部構造に及ぼす影響
- C153 田尻拓也・村上正隆(気象研)他2名 山岳性降雪雲の内部構造観測 FMCW 型 K-band ドップラーレーダーの有用性について
- C154 橋本明弘(AESTO)・村上正隆(気象研)他2名 矢木沢ダム風上領域の降雪雲に関する雲解像モデル結果を用いた統計解析
- C155 岩波越(防災科研)・楠研一(気象研)他4名 X バンド偏波レーダーによる降水粒子判別(1) - HYVIS データとの比較による粒子別の偏波パラメータ出現頻度 -
- C156 岡本創(東北大院理)・西澤智明(気象研)他4名 アクティブセンサーを用いた雲微物理量と雲底下のエアロゾル特性の相関：中緯度と熱帯域の比較
- C157 佐藤可織・岡本創(東北大院理)他4名 氷晶雲の消滅過程と雲内鉛直流について
- C158 亀田貴雄・古谷和憲(北見工大)他2名 南極ドームふじで1年間観察した雪結晶の特徴

## 降水システム I

座長：川畑拓矢 (気象研)

- C159 若月泰孝(AESTO)・室井ちあし(気象研)他4名 非静力学モデルによる領域気候実験における豪雨の再現性
- C160 金田幸恵(AESTO/気象研)・室井ちあし(気象研)他5名 水平解像度 1km 非静力学モデルによる領域温暖化予測実験 5km 実験と 1km 実験の比較
- C161 川畑拓矢・黒田徹(気象研) NHM-4DVAR を用いたレーダー反射強度データ同化実験
- C162 林修吾・加藤輝之(気象研) 冬季の落雷極性比率と 1km-NHM における雲の統計的特徴の比較(2005/06冬)
- C163 山田芳則(気象大) 卓越する風向にほぼ平行な走向を持つバンド状降雪雲の数値シミュレーション - 鉛直シアとバンド内の循環との関係 -
- C164 B. C. Bhatt・中村健治(名大地球水循環) Characterization of cloudiness over the mountainous regions in south Asia using satellite data
- C165 千喜良稔(FRCGC)・Wang Yuqing (IPRC) 鉛直一次元モデルを用いた CCSR/NIES/FRCGC AGCM と IPRC 領域気候モデルで表現されるペルー沖層積雲の比較
- C166 Krishna Reddy・城岡竜一(IORGC)他5名 Diagnosis of the Marine Atmospheric Boundary Layer and Microphysical Parameters over Palau in the Tropical Western Ocean

## 大会第1日〔10月25日(水)〕 D会場

( )は講演者を表す

## 午前 (09:45 ~ 12:30)

## 大気化学・物質輸送

座長：出牛 真 (気象研)

- D101 平沢尚彦(極地研)・田阪茂樹(岐阜大)他2名 昭和基地ラドン測定で検出されたオーストラリア地域からの長距離輸送の事例解析
- D102 田阪茂樹(岐阜大)・田口彰一(産総研)他3名 南極海におけるラドン観測
- D103 出牛真・柴田清孝(気象研) 成層圏化学気候モデルによる塩素リザーバーの長期的な濃度変動の再現精度の向上について
- D104 秋吉英治・坂本圭(環境研) オゾン層将来予測実験で得られたオゾンホールの小さい年についての解析
- D105 坂本圭・秋吉英治(環境研)他3名 太陽活動に対応する熱帯下部成層圏オゾンの変動
- D106 Zhou Libo・秋吉英治(環境研) 北半球中緯度におけるオゾン QBO の経度依存性
- D107 高島久洋・塩谷雅人(京大生存研)他3名 熱帯中部太平洋クリスマス島における上部対流圏極低濃度オゾン
- D108 笠井康子・落合啓(NICT)他11名 JEM/SMILES 大気観測性能の検討
- D109 伊藤彰記・須藤健悟(FRCGC)他3名 対流圏オゾンおよびその放射強制力に対するバイオマス燃焼による影響の全球解析
- D110 比連崎路夫(東大気候システム)・須藤健悟(名大院環境)他5名 大気化学モデル(CHASER)を用いたシベリア森林火災とアラスカ上空対流圏COの増加イベントに関する解析

## 午後 (13:30 ~ 17:00)

## エアロゾル

座長：内山明博 (気象研)

- D151 田中泰直・青木輝夫(気象研)他1名 エアロゾル沈着による雪氷面アルベド変化の感度実験
- D152 内山明博・岡田菊夫(気象研)他7名 エアロゾルの光吸収特性について
- D153 青木一真・松下純(富山大理) 立山・浄土山観測における高標高地域のエアロゾルの光学的特性
- D154 KHATRI PRADEEP・ISHIZAKA YUTAKA (名大地球水循環) Contributions of continental air pollutants to aerosol optical properties over the East China Sea
- D155 荒生公雄(長崎大環境科学)・松山成男(東北大院工) 長崎地方における2005年春の小粒径エアロゾルの組成
- D156 新井豊・今須良一(東大気候システム)他2名 粒径情報を取り入れたエアロゾルデータ同化手法
- D157 入江仁士・金谷有剛(FRCGC)他2名 MAX-DOAS法による対流圏NO<sub>2</sub>とエアロゾルの同時観測
- D158 直江寛明(気象研) 大気中における硫黄サイクル

## 観測手法

座長：石井昌憲 (NICT)

- D159 齋藤尚子(東大気候システム)他3名 GOSAT 熱赤外FTSセンサーによるCO<sub>2</sub>濃度導出
- D160 久慈誠(奈良女子大理)・中島映至(東大気候システム) ADEOS-II/GLI 観測データを用いた雲の幾何学的特性量の推定
- D161 大野裕一・堀江宏昭(NICT)他1名 CloudSat 雲レーダのSPIDER 観測による検証
- D162 永田肇・山本真之(京大生存圏)他7名 赤道大気レーダー (EAR)・95GHz 雲レーダー (SPIDER)による熱帯上部対流圏の巻雲観測(続報)
- D163 石井昌憲・水谷耕平(NICT)他4名 航空機搭載コヒーレントドップラーライダー観測③
- D164 植研一・中澤哲夫(気象研)他6名 詳細気象観測のための可搬型ドップラー気象レーダーの開発
- D165 柳野健(気象研) ドップラーレーダーの風復元に關する理論解析と応用解析

## 大会第1日〔10月25日(水)〕17:00～18:00 ポスターセッション

( )は講演者を表す)

- P101 庭野将徳・滝川雅之(FRCGC)他3名 都市スケール化学天気予報システムの開発:力学場の検証(1)
- P102 滝川雅之(FRCGC)・高橋正明(東大気候システム)他3名 都市スケール化学天気予報システムの開発(2)
- P103 佐藤友徳(学振/東大気候システム)・辻村真貴(筑波大院生命環境)他4名 モンゴルにおける降水中酸素安定同位体比の季節内変動の要因について
- P104 三浦英和・小池真(東大院理)他7名 陽子移動化学イオン化質量分析計(PTR-MS)及びボックスモデルを用いた都市大気中のアルデヒドの動態に関する研究
- P105 仲田季寧(茨城大理)他5名 HD-MAX-DOAS法による対流圏NO<sub>2</sub>およびオゾン量の観測(1)
- P106 風岡亮・木田秀次(京大院理) 2001年1月の北日本に到達した空気塊流跡線の異常な特徴
- P107 弓本桂也(九大院総理工)・鶴野伊津志(九大応力研)他3名 4次元変分法によるライダー観測のデータ同化と黄砂の発生源評価
- P108 柴崎登紀子・野口克行(奈良女子大理)他5名 衛星観測データと化学気候モデルを用いた東アジア域からの窒素酸化物の長距離輸送の事例解析
- P109 鈴木一成(九大院理)他6名 富士山頂におけるエアロゾルの実測値と数値モデルとの比較
- P110 Li Jingmin・長田和雄(名大院環境) Water insoluble dust particles in spring snow at Mt. Tateyama, Japan: Characteristics of their size distribution and shape factors
- P111 緒方裕子・張代洲(熊本県立大環境共生)他1名 奄美大島におけるエアロゾル粒子の組成の解析:平成十七年春の観測例
- P112 安成哲平・山崎孝治(北大院地球環境)他6名 アラスカ・ランゲル山へ輸送された成層圏起源トリチウムの対流圏移流時期及び交換場所の特定
- P113 酒井哲(気象研)・西田千春(名大院環境)他1名 光散乱式パーティクルカウンターと電子顕微鏡で測定した鉱物粒子サイズの比較
- P114 西澤智明(気象研/学振)・岡本創(東北大院理)他4名 全球3次元エアロゾル輸送モデルと2波長偏光ライダーデータから導出されたエアロゾル鉛直分布の比較(II)
- P115 宮崎和幸・Patra Prabir K. (FRCGC)他2名 対流圏各層における二酸化炭素濃度変動に対する地表フラックス変動および大気輸送効果の役割
- P116 江頭未央(九大院総理工)・竹村俊彦(九大応力研)他2名 最終氷期極大期(LGM)におけるダストの全球分布シミュレーション
- P117 深堀正志(気象大)・森野勇(環境研)他3名 CH<sub>4</sub>の2ν<sub>3</sub>帯の半値半幅の温度依存性
- P118 石田春磨(東海大情技センター)・浅野正二(東北大院理) 有限体積法と球面調和関数展開を用いた不均質大気における放射伝達計算手法の開発
- P119 濱田篤・西憲敬(京大院理)他9名 ミリ波雲レーダとGMS split-windowを用いた雲の種類・光学特性の推定
- P120 小林隆久(気象研) Inversion法を用いたライダーによるエアロゾル特性推定手法
- P121 中里真久・永井智広(気象研)他1名 対流圏オゾンライダーにおける観測データのエアロゾル補正
- P122 Nanda B. Adhikari・井口俊夫(NICT)他4名 On the Combined Use of Co-located K-Band Micro Rain Radar, W-Band Cloud Profiling Radar and Disdrometers for Raindrop Size Distribution Retrieval
- P123 圓山憲一・鈴木健司(金沢大院自然科学)他3名 2D-VDとPOSSによる雨滴サイズ分布と降雨Z-R関係の連続測定
- P124 菊地信行(JAXA/EORC)・久慈誠(奈良女子大理)他2名 GLI可降水量プロダクトの検証その2
- P125 青梨和正(気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計AMSRE降水強度リトリバルアルゴリズムの開発(その5)
- P126 松ヶ谷篤史・古本淳一(京大生存圏)他1名 MUライダー・RASSイメージングによる温度微細構造の観測
- P127 高山陽三(気象研) マイクロレインレーダによる降雨強度観測鉛直風の補正
- P128 鈴木修・山内洋(気象研)他1名 メソサイクロン及び局所収束・発散域の検出アルゴリズムの開発ーシビア現象の危険度診断のためにー
- P129 岡本幸三(気象庁数値予報) 陸・雪・海水域における衛星観測マイクロ波輝度温度を用いたモデル検証と同化
- P130 小司禎教・瀬古弘(気象研)他1名 Non-local観測演算子によるGPS掩蔽データ同化システムの開発
- P131 國井勝・大関誠(気象研)他1名 気象庁非静力学モデルに対する特異ベクトルの計算(第3報)

## 大会第1日〔10月25日(水)〕17:00～18:00 ポスターセッション

( )は講演者を表す)

- P132 星野誠・岩崎俊樹(東北大院理)他1名 高解像度JMA-NHMを用いた宮城県の局地気象予報システム構築
- P133 永戸久喜・青梨和正(気象研) 雲解像モデルの降水物質予測特性の水平解像度依存性について
- P134 武田重夫(気象研) Hillの球形渦類似の流れパターンによるシンプルな対流モデルの検討(その4:安定度、安定成層中における議論)
- P135 斎藤篤思・村上正隆(気象研)他5名 ダム集水域における固形降水の精確な計量
- P136 折笠成宏・村上正隆(気象研) HYVIS観測データから得られた巻雲内氷晶タイプの特徴
- P137 池田健一・檜山哲哉(名大地球水循環)他1名 セミ・ラグランジュ法を用いた雨滴粒径別同位体交換モデルの構築
- P138 足立透・福西浩(東北大院理)他8名 FORMOSAT-2/ISUALで観測されたスプライトの発光形態とそれを誘起した雷放電の電気的特徴
- P139 関隆則(気象予報士会)・上條賢一(東洋大院生命科学) 変動係数平方値による500hPa高度の傾度評価とその性質
- P140 小林文明・萱原祐也(防衛大地球海洋)他4名 2006年4月20日藤沢市に突風被害をもたらした積乱雲のドップラーレーダ観測
- P141 小川由佳(防衛大地球海洋)他9名他 夏季東京都心周辺における積乱雲の発生時の下層風系—2004年8月10日の事例—
- P142 寺田昌弘・里村雄彦(京大院理) 非静力学モデルWRFを用いた1994年9月6日伊丹豪雨の再現実験
- P143 梅本泰子(京大生存研)・手柴充博(オクラホマ大)他2名 MUレーダー観測に基づく梅雨期の降水システムに関する研究
- P144 出世ゆかり(NICT)他2名 沖縄地方の梅雨期の寒冷前線に伴う対流性降水のCOBRA偏波特性
- P145 石川由紀(愛知教育大) 秋季の局地豪雨時における上層擾乱とバロトロピック高気圧
- P146 広沢学(日大院総合基礎科学) 東アジアで発生する寒冷渦に関する総観気候学的研究
- P147 鈴木舞(筑波大院環境科学)・田中博(筑波大計算科学) 前線形成に関わる変形場からみた梅雨前線領域の特徴と高層ジェット気流の関係
- P148 遠藤伸彦・飯島慈裕(IORGC) 東シベリアにおける冬季接地逆転層の気候学的特徴と経年変化
- P149 片庭沙基(筑波大学自然科学類)・田中博(筑波大計算科学)他1名 2005年12月5日に発達したポーラーローの数值シミュレーション
- P150 古津年章・太田隆史(鳥根大総理工)他1名 スマトラ・コトタバンにおける降雨構造の季節内変化
- P151 古津年章(鳥根大総理工)・高藪緑(東大気候システム)他4名 衛星降雨観測のための地球規模雨滴粒径分布モデル
- P152 重嶋一(大阪府大院工)・高藪緑(東大気候システム)他1名 TRMM PRデータからの潜熱加熱プロファイルのスペクトル推定:熱帯海洋上の加湿プロファイルの推定
- P153 重嶋一(大阪府大院工) 南シナ海における対流システムの伝播
- P154 中島康裕・岩崎杉紀(防衛大地球海洋)他4名他 キリバスに設置したライダによるSubvisual Cirrus Cloudの初期解析
- P155 金森大成(名大院環境)・蔵治光一郎(東大農学生命)他1名 ボルネオ島西部における季節内変動に伴う降水日変化特性
- P156 加藤悠介(千葉大 CEReS) 静止気象衛星で得られた北西太平洋における孤立積雲と大規模組織雲との関係
- P157 市川裕樹(名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環) 海洋大陸域を通過する季節内擾乱の内部構造とその季節変化
- P158 栢原孝造(防災科研) 大気大循環モデルによる温暖化SST実験と2xCO<sub>2</sub>実験において再現された熱帯低気圧活動度の積雲対流調節方式の違いによる影響について
- P159 高野洋雄・村田昭彦(気象研) 波浪による海面粗度変化の台風発達への影響(2)
- P160 Kishore P.・Nambhoorthi S.P.(NICT) 他2名 Gravity waves studies during stratospheric warming events using satellite measurements
- P161 田口正和(愛知教育大) 簡略化された全球循環モデルにおける傾圧擾乱により励起される惑星波の診断
- P162 寺崎康晃(筑波大院生命環境)・田中博(筑波大計算科学) 大気大循環のエネルギースペクトルに見る東西波数の-4の法則
- P163 高橋洋・安成哲三(名大地球水循環) インドシナ半島における雲降水活動の日変化の季節推移



## 大会第1日〔10月25日(水)〕17:00～18:00 ポスターセッション

(\_\_\_\_\_は講演者を表す)

- P164 荻野慎也(IORGC/神戸大院自然)・野津雅人(神戸大院自然)他5名 ベトナム・ハノイにおける対流圏下層の逆転層:水蒸気と関係する季節内変動
- P165 永野良紀(日大院総合基礎科学)・加藤央之(電中研)他1名 東アジアにおけるチベット高気圧の統計解析
- P166 Prasanna Venkatraman (名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環) Space-Time Characteristics of Seasonal and Inter annual Variations of Precipitation, Convergence and Evaporation over South Asia
- P167 黄賀勇・森本宏(名大院環境) Wavelet based fractal analysis of ENSO cycle
- P168 名倉元樹・安藤健太郎(IORGC)他1名 1999年ラ・ニーニャから2002年エル・ニーニョへの遷移期における赤道太平洋中央部の混合層熱バランス
- P169 吉田聡・小守信正(地球シミュレータ)他2名 メキシコ湾流 SST 勾配に対する低気圧活動の応答
- P170 田中実(気象研) アジア・西太平洋地域における長期気候データベースの作成及び応用
- P171 堀雅裕(JAXA/EORC)・青木輝夫(気象研)他2名 ADEOS-II/GLIにより観測された半球規模積雪物理特性の時空間変動
- P172 飯塚聡・松浦知徳(防災科研) 長江流域の気象・流量データに見られる変動について
- P173 中野智子(首都大都市環境)・根本学(都立大院理)他1名 モンゴル半乾燥草原における夜間の水蒸気フラックス
- P174 永井信・森本宏(名大院環境) 衛星による熱帯雨林のフェノロジー観測の有用性の検証
- P175 永井晴康・都築克紀(JAEA) 大気-陸面-水文結合モデルの開発と砂漠地域における水循環予測の試験計算(2)
- P176 伊賀晋一・富田浩文(FRCGC)他5名 NICAMによる七月条件下での全球雲解像実験
- P177 松崎加奈子(名大院環境)・田中今日子(北大低温研)他2名 解析的雲モデルとエネルギー循環モデルの結合による温暖化予測
- P178 村上和隆・山口靖(名大院環境)他1名 シンプル地球システムモデルによる数百年スケールの地球環境変動の要因解析
- P179 石原幸司・栗原和夫(気象研) 地球温暖化に伴う日本の冬季降雪変化について
- P180 蜂須賀隆友・渡邊誠一郎(名大院環境)他1名 シンプルな氷床結合気候システムモデルによる、水期-間氷期サイクルの解析
- P181 永田玲奈(首都大都市環境)・財城真寿美(学振) 日本における降水量と日降水指数の長期変化
- P182 鈴木博人(JR 東日本防災研) 日本における大雪の出現頻度と気温の関係
- P183 倉橋永(仙台管区気象台)他3名 20km 格子地域気候モデルにより再現された冬季降水量の検証
- P184 田上善夫(富山大人間発達科学) 北陸の降水分布に現れる低山の影響
- P185 大橋喜隆・川村隆一(富山大院理工) 夏季の北陸地方のフェーン現象発現時における GPS 可降水量変動
- P186 田畑弾(富山大院教育) 富山県における気圧配置型と強風の関係
- P187 大西将徳・酒井敏(京大院人間環境)他1名 全国地上風分布
- P188 斎藤誠(筑波大院環境科学)・木村富士男(筑波大院生命環境)他2名 水田が都市域にもたらすヒートアイランド緩和効果
- P189 青柳曉典・清野直子(気象研) 気象庁非静力学モデル用簡易都市キャノピーモジュールの開発
- P190 小澤淳真(パスコ) アルベドの違いによる表面温度上昇の抑制効果について

## 大会第2日〔10月26日(木)〕09:30～12:00

( ) は講演者を表す。[OHP] は OHP を使用する講演を示す。

### A 会場

#### 気象予報

座長：山根省三（千葉科学大 /FRGC）

- A201 百瀬晴行(所属なし) MJO を応用した BP 法による東京最高気温半年偏差の半年平均の予測法について [OHP]
- A202 彭新東・高橋桂子(地球シミュレータ) 特徴解法による球面浅水波モデルの数値解
- A203 室井ちあし(気象研) 立方体型非静力学大気モデルの改良
- A204 榎本剛(地球シミュレータ)・山根省三(千葉科学大 /FRGC)他1名 実験的再解析に向けた AFES の改良
- A205 三好建正(気象庁数値予報)・山根省三(千葉科学大 /FRGC)他1名 AFES-LETKF による 2005 年 5 月以降の実験的再解析
- A206 山根省三(千葉科学大 /FRGC)・三好建正(気象庁数値予報)他2名 大気大循環モデルのアンサンブル実験に見られる擾乱の発展について
- A207 斉藤和雄(気象研) 気象庁非静力学モデルによるメソアンサンブル予報実験(その4 BGM 法のテスト序報)
- A208 三好建正・荒波恒平(気象庁数値予報) 気象庁非静力学モデルを使った4次元アンサンブル・カルマンフィルタ
- A209 山口宗彦・入口武史(気象庁数値予報)他1名 台風予報を対象とした観測システム実験
- A210 及川博史・井之口浜木(JAXA)他1名 乱気流データ観測のための発生域の予測
- A211 及川博史・井之口浜木(JAXA)他1名 日高山脈に起因する乱気流の予測

### B 会場

#### 気候システム II

座長：渡部雅浩（北大院地球環境）

- B201 井上誠・高橋正明(東大気候システム) 夏季アジアモンスーンに伴う対流圏—成層圏循環の変動
- B202 廣田渚郎・高橋正明(東大気候システム) 1979-2003 年梅雨期の PJ パターンに似た気候トレンド
- B203 岩尾航希・高橋正明(東大気候システム) 夏季北ユーラシアにおける降水量の南北対称モード
- B204 荒井美紀・木本昌秀(東大気候システム) AGCM による夏季東アジア域の天候の再現性
- B205 安富奈津子・木本昌秀(東大気候システム)他1名 CCSR/NIES/FRGC T106 CGCM から得られた地球温暖化時の夏季アジアモンスーン域の主要変動モード
- B206 宮坂貴文(東大気候システム)・中村尚(東大院理) 冬季南半球亜熱帯高気圧の三次元構造と形成力学
- B207 李相勲・山川修治(日大文理) 冬季モンスーンによる北太平洋及び東アジア域におけるストーム活動
- B208 森正人・渡部雅浩(北大院地球環境) ENSO イベント時の MJO を介した PNA 励起メカニズム
- B209 横山直美(筑波大院生命環境)・田中博(筑波大 CCS/FRGC) 大気の順圧成分および海面更正気圧で定義される北極振動の比較
- B210 山下陽介・高橋正明(東大気候システム) 太陽黒点 11 年周期変動に伴う北極振動シグナルの変調
- B211 木村詞明(北大低温研) 冬季北極海における海水の動きの長期変化

## 大会第2日〔10月26日(木)〕09:30～12:00

( ) は講演者を表す。[OHP] は OHP を使用する講演を示す。

### C 会場

#### 降水システム II

座長：岩崎博之（群馬大教育）

- C201 用具敏郎(福岡管区気象台) 2006年7月18日から24日にかけて九州中・南部で発生した記録的豪雨-雨量速報-
- C202 加藤輝之(気象研) 梅雨期における積乱雲の潜在的発達高度に関する統計的研究その2:上層と中層のピークを決定する要因
- C203 合田泰弘・加藤内藏進(岡山大教育) 2001年6月19日頃に九州で維持された多数の線状降水帯と北方から南下した梅雨前線について
- C204 山岬正紀(FRCGC) 梅雨前線に伴う降雨(2004年7月 福井豪雨)に関する数値実験
- C205 歌麿・山田広幸(IORGC) 梅雨期に中国大陸と海上で TRMM により観測された反射強度の鉛直プロファイルの比較
- C206 二宮洗三(FRCGC) 大気大循環モデルでシミュレートされた南大西洋収束帯と梅雨前線帯の類似点と相違点 [OHP]
- C207 岩崎博之(群馬大教育)・佐藤友徳(学振/東大気候システム)他5名 ウランバートル周辺の対流活動の日変化の特徴-なぜ、夜間に積乱雲活動が活発にならないのか? -
- C208 川瀬宏明・木村富士男(筑波大院生命環境) モンゴルの降水の日変化と総観規模擾乱との関係
- C209 藤田実季子(IORGC)・木村富士男(筑波大)他2名 マラッカ海峡における降水の日変化
- C210 原政之・吉兼隆生(FRCGC)他1名 ボルネオ島周辺域における対流活動の日変化
- C211 宮川知己(東大院理)・里村雄彦(京大院理)他1名 ベンガル湾上における MCS 南進時の背景場およびその果たす役割

### D 会場

#### 気象教育

座長：岩山隆寛（神戸大院自然）

- D201 藤井健(京都産業大理)・寺野健治(関西気象予報士会)他3名 小学校出前授業「楽しいお天気講座」の最近の状況
- D202 吉川契子(静岡中央高) 高校地学における静岡平野の海陸風の教材化

#### 中層大気

座長：岩山隆寛（神戸大院自然）

- D203 北村美沙子・廣岡俊彦(九大院理)他1名 成層圏及び下部中間圏における大気潮汐波について(2)
- D204 黒田友二(気象研) 成層圏突然昇温の熱帯上昇流への影響

#### 大気力学

座長：岩山隆寛（神戸大院自然）

- D205 岩朝美晴(東大気候システム)・荒川隆(RIST)他1名 全球 RAMS 計算によって得られた対流圏中層デトレイメントの駆動メカニズムに対する平衡大気の熱力学的構造からの解釈
- D206 伊賀啓太(東大海洋研) 渦位勾配を伴ったシアー流中の中間規模東進波
- D207 末吉雅和・岩山隆寛(神戸大院自然) 変形半径がジェットの安定性に及ぼす影響について
- D208 山中大学(IORGC / 神戸大自然) 水平対流論の再考(3):日周期・季節内・年周期の対流移動メカニズム
- D209 関瀬博文(所属なし) 寒気を挟む暖気間の引き合いが気流・気圧差・熱力学に無関係であることを示す実験
- D210 正村史朗(総合科学研究所) 2015年に冷夏、2020年に冷夏、2022～28年に2年間と4年間連続の大凶冷群(天明系)発生 [OHP]

## 大会第3日〔10月27日(金)〕 A会場

( )は講演者を表す)

## 午前 (9:30 ~ 11:30)

## スペシャルセッション「惑星大気の科学」I

座長：伊賀晋一 (FRCGC)

- A301 城戸敦彦(九大総理工)・和方吉信(九大応力研) 金星型惑星大気における多重平衡解の AGCM による再現
- A302 伊賀晋一(FRCGC) 金星下層大気の数値シミュレーション
- A303 池田恒平(東大気候システム)・山本勝(九大応力研) 他1名 金星大気大循環モデルの開発と数値実験
- A304 高木征弘(東大院理)・松田佳久(学芸大) 金星大気スーパーローテーションに対する熱潮汐波の力学的効果
- A305 三津山和朗(東大院理)・今村剛(JAXA)他5名 すばる望遠鏡/COMICSによる金星雲頂変動の観測
- A306 吉田純・高橋幸弘(東北大院理)他3名 金星気象衛星による金星雷・大気光観測
- A307 吉田純・高橋幸弘(東北大院理)他1名 地上望遠鏡から探る金星昼側雲構造
- A308 山中大学(IORGC / 神戸大自然) 惑星大気の縞模様について
- A309 中島健介(九大院理) タイタンの“対流雲”の諸問題

## 午後 (13:30 ~ 16:45)

## スペシャルセッション「惑星大気の科学」II

座長：小高正嗣 (北大院理)

- A351 林祥介(北大院理)・山田通夫(京大数理)他4名 回転球面あるいは球殻の縞帯問題：ロスビー波と平均流加速【招待講演】
- A352 高橋幸弘(東北大院理)・松浦浩美(NTT コミュニケーションズ) 可視近赤外領域における木星昼面多波長撮像観測【招待講演】
- A353 杉山耕一朗・小高正嗣(北大院理)他2名  $H_2O$ ,  $NH_3$ ,  $NH_4SH$  雲を考慮した木星大気の雲対流数値計算
- A354 三村和男(東海大教養) 無限自由度を持つ現実流体中の低次カオス
- A355 渡辺高宏(東海大理)・三村和男(東海大教養) 鉛直設置型閉ループ内数値シミュレーション有限要素法による解析
- A356 有井卓(東海大院理)・三村和男(東海大教養)他1名 鉛直設置型閉ループ内熱対流における主流の振る舞い～自発的レジームシフトの可能性～

座長：高橋芳幸 (北大院理)

- A357 今村剛(JAXA)・川崎泰宏(日立製作所)他1名 火星大気および地球成層圏のメソスケールでの波数スペクトル【招待講演】
- A358 小林綾子(東京理大理)・今村剛(JAXA/ISAS) MGS/TESによる火星大気の惑星スケール波のスペクトル解析
- A359 福原哲哉・今村剛(JAXA/ISAS) MGS/TESで観測された火星の夏期極域における波動
- A360 小郷原二智・里村雄彦(京大院理) 火星ダストの急速な拡大と Hellas Basin の斜面との関係の考察
- A361 光田千紘(北大院理)・横島徳太(環境研)他1名 放射冷却による二酸化炭素氷雲の形成と古火星大気の温室効果
- A362 高橋芳幸・光田千紘(北大院理)他2名 火星大気大循環モデルで用いる  $CO_2$   $15 \mu m$  帯放射モデルの再構築と循環への影響

※招待講演の持ち時間は18分です。

## 大会第3日〔10月27日(金)〕 B会場

( )は講演者を表す)

## 午前 (9:30 ~ 11:30)

## 気候システム III

座長：西森基貴 (農環研)

- B301 大和田道雄・石川由紀(愛知教育大)他5名 名古屋の暑さの実態とその原因について
- B302 阪井雅洋・泉伸司(いであ(旧国土環境))他2名 小型GPS・温湿度計を搭載した自転車によるヒートアイランド現象の観測
- B303 吉兼隆生(FRCGC)・木村富士男(FRCGC/筑波大院生命環境) 冬季日本降水分布の形成要因に関する数値実験
- B304 藤部文昭(気象研)・小林健二(気象庁観測) 日本における降水の空間的集中度の長期変化
- B305 石原幸司(気象研) ノンパラメトリックな手法を用いた確率降水量の算出
- B306 山崎信雄(気象大)・高橋清利(気象研)他1名 日本付近の冬の階級毎降水量のトレンド
- B307 水野量(気象大) アメダスデータを用いた長期再現期間推定
- B308 西澤誠也(京大数理研) 顕著現象のトレンドの新しい検出および検定法
- B309 西森基貴(農環研)・木村富士男(筑波大陸域環境)他3名 TERC-RAMSを用いたアジア域における気候極値・異常気象の再現と予測

## 午後 (13:30 ~ 16:45)

## 気候システム IV

座長：馬淵和雄 (気象研)

- B351 大石龍太・阿部彩子(東大気候システム) 動態植生モデル導入による温暖化進行への影響
- B352 馬淵和雄・高橋清利(気象研)他1名 近年の東アジア陸域における炭素収支変動の特徴— BAIM2を導入した地域気候モデルによる数値実験—
- B353 丹羽洋介・今須良一(東大気候システム)他2名 CO<sub>2</sub>ソース・シンク逆解析のためのNICAMを用いた大気物質輸送シミュレーション
- B354 吉川知里・河宮未知生(FRCGC)他2名 地球温暖化に対する炭素循環フィードバックの地理的分布について
- B355 塩竈秀夫(環境研)・Nikolaos Christidis (英国ハドレーセンター)他4名 20世紀後半において温室効果ガス濃度とエアロゾル排出量の変化が気温の極端現象に及ぼした影響
- B356 横島徳太・江守正多(環境研)他10名 CO<sub>2</sub>漸増地球温暖化実験：様々なモデルにおける気候フィードバック
- B357 長谷川聡(環境研)・江守正多(環境研/FRCGC/東大気候システム)他3名 全球雲解像モデル水惑星実験における温暖化による降水の力学・熱力学的変化

座長：村上茂教 (FRCGC)

- B358 村上茂教・大垣内のみ(FRCGC)他2名 氷期気候系におけるエネルギー・淡水バランス(2)—海盆規模での密度・塩分・温度構造—
- B359 竹村俊彦(九大応力研)・對馬洋子(FRCGC)他4名 大気循環モデルによる20世紀の放射強制力の経年変化
- B360 Raschke Ehrhard・Kinne Stefan (University Hamburg) 他1名 On some inconsistencies in the radiation climatologies of ISCCP-FD and GEWEX-SRB and in IPCC-FA data.
- B361 塩竈秀夫・江守正多(環境研)他1名 2030年までの確率的気候変化予測に向けて
- B362 筒井純一・吉田義勝(電中研)他2名 大循環モデルでシミュレートされた気候変化のインパルス応答関数による近似
- B363 日名啓太・神沢博(名大院環境)他1名 地球温暖化に伴う無降水日数の変化
- B364 鈴木香寿恵(総研大)・山内恭(極地研)他2名 南極・昭和基地およびドームふじ基地における降雪時の大気輸送経路



## 大会第3日〔10月27日（金）〕 C会場

（ ）は講演者を表す。[OHP]はOHPを使用する講演を示す。

### 午前（9:30～11:30）

#### 台風

座長：別所康太郎（気象研）

- C301 星野俊介・別所康太郎（気象研） AMSU データを用いた台風の暖気核構造の追跡
- C302 別所康太郎・中澤哲夫（気象研）他2名 JRA-25 からみた台風へ発達する可能性のあるクラウドクラスター
- C303 上野充（気象研）鉛直シアーにより生成される台風コア域内降水非対称の大きさについて
- C304 村田昭彦（気象研）台風0421号に伴う紀伊半島での豪雨における降水強化機構
- C305 益子渉（気象研）台風0422号の進行方向後面左側で生じた強風のメカニズム
- C306 植研一・益子渉（気象研）他1名 台風アウトバーン下層の重力波出現時の総観場の特徴
- C307 中野藤之（東北大院理）台風における雷現象の特徴
- C308 北嶋尚子（気象研）・榊原均（気象大）伊勢湾台風の構造の再検討 —昔のデータに最近の知見を適用する—

### 午後（13:30～16:45）

#### スペシャルセッション「台風災害への対応を考える」

座長：弘中秀治（宇部市役所）

- C351 藤井聡（気象予報士会） 8～9月台風の経年変化
- C352 二広志（気象予報士会） 台風の接近・通過時に発生した大雨の成因についての事例解析とその成果の防災・減災活動への応用の可能性についての考察 [OHP]
- C353 天野篤（アジア航測）・弘中秀治（宇部市役所）他1名 鹿児島県「土砂災害警戒情報」の検証
- C354 武居信介（中京テレビ）・白石晶二（気象予報士会） 気象災害と情報伝達（海山町水害の検証）
- C355 渡部孝史（東海旅客鉄道）・弘中秀治（気象予報士会） 東海道新幹線における気象予報の活用について
- C356 谷昌樹（三重県大台町役場）・弘中秀治（宇部市役所） 台風時の防災活動の現場の実際
- C357 牛山素行（岩手県立大総合政策） 豪雨防災情報による人的被害軽減効果推定の試み
- C358 植松久芳・白石晶二（気象予報士会） 気象情報・防災情報の利活用を促進するために
- C359 富山芳幸（WNI） 予報の不確実性とコミュニケーションの不確実性

## 大会第3日〔10月27日(金)〕 D会場

( )は講演者を表す)

## 午前 (9:30 ~ 11:30)

## 相互作用

座長：青木輝夫 (気象研)

- D301 山本勝・広瀬直毅(九大応力研) 衛星データ同化 SST を用いた日本海域の冬季低気圧の数値実験
- D302 山田広幸・耿驪(IORG)他2名 梅雨前線上で夜間に発達する雲システムに対する陸面加熱の役割
- D303 大泉三津夫(気象研) JMANHM による関東平野の積雪再現実験での過少積雪について
- D304 朴昊澤(IORG/JST)他4名他 東ユーラシア域における水・エネルギー収支の時・空間変動特性の評価
- D305 山崎剛(東北大院理/IORG)・加藤京子(JST)他3名 陸面モデルによる北方林の水・エネルギー循環に関する考察(2)
- D306 青木輝夫・田中泰宙(気象研)他3名 積雪粒径と不純物濃度の関数として変化する積雪アルベド物理モデルの開発
- D307 山内明子・小林裕司(伊豆海洋研)他2名 変動係数平方値による海水温変動の解析 - 季節境界における性質について -
- D308 篠田雅人(鳥大乾地研)他3名 モンゴル草原多年生草本の植物季節と気象条件

## 午後 (13:30 ~ 16:45)

## 環境気象

座長：近藤裕昭 (産総研)

- D351 大和田道雄(愛知教育大)・深谷真美(あずみ)他1名 都市域で発生した局地豪雨の事例解析
- D352 中川由雅(愛知教育大)・大和田道雄(愛知教育大)他1名 温帯低気圧の異常発達に関わる帯状流変動解析
- D353 石坂隆・Adhikari Mandira (名大地球水循環)他3名 東シナ海近辺上における雲粒核数濃度の特性とその役割に関する観測
- D354 川端一史・近藤邦男(環境技研)他3名 青森県六ヶ所村における霧水中の水溶性イオン濃度と霧粒の粒径分布
- D355 吉村英俊(山梨大院医学工学総合教育)・片谷孝孝(山梨大院医学工学総合研究) 酸性降下物予測モデルに対するサブグリッドスケールの降水量分布の影響
- D356 大西将徳・酒井敏(京大院人間環境) 京都におけるCO濃度の日・季節変化とその要因の推定

## 大気境界層

座長：大塚清敏 (大林組技研)

- D357 近藤文義・塚本修(岡大院自然)他1名 Inertial Dissipation Method による海面乱流フラックス評価
- D358 筆保弘徳(IORG)・桑形恒男(農環研)他4名 局地風広戸風の発生に対する台風の影響
- D359 大塚清敏(大林組技研) マイクロバーストからの吹出し風に対する小地形の影響について
- D360 余偉明(東北大院理) A Comparison of Numerical Simulation and Wind Tunnel Experiment on Unstable Stratified Flow Within and above a Modeled Urban Canopy
- D361 木村富士男・井上忠雄(筑波大院生命環境)他1名 高解像度・長期シミュレーションが可能な線形化都市気象モデル
- D362 井上忠雄・木村富士男(筑波大院生命環境) 都市上空に生成される積雲の都市気象モデルによる感度実験
- D363 川村誠治・関澤信也(NICT)他2名 都市境界層観測のためのMSPCウィンドプロファイラの開発と沖縄での検証実験
- D364 岩井宏徳・村山泰啓(NICT)他3名 コヒーレントドップラーライダーによる東京都内における大気境界層内風速観測

## 大会第3日〔10月27日(金)〕11:30～12:30 ポスターセッション

( )は講演者を表す)

- P301 瀬田孝将(NICT)・保科宏道(理研)他3名 テラヘルツ時間領域分光法による水蒸気のスpekトルの圧力広がり係数測定
- P302 神崎隆男・市川陽一(電中研)他2名 風洞実験による高活性炭素繊維の流体力学特性評価
- P303 江口景子・阿部理(名大院環境)他1名 液体窒素で水滴が氷結するときの水素及び酸素同位体比の変化
- P304 北和之(茨城大理)他6名 中国都市郊外における窒素酸化物およびオゾンの観測～速報～
- P305 篠田佳宏・五十嵐康人(気象研) 2006年春季につくばで観測した黄砂および風塵現象の解析
- P306 千葉長(気象研)・猪股弥生(金沢大)他3名 高ガンマ線量率事象発生にかかわる気象場 - 2002年12月16 - 17日、輪島で観測された事例 -
- P307 久慈誠・日比野真弓(奈良女子大理)他3名 ライダー観測データ解析による東アジア域のエアロゾルの研究
- P308 伊藤春奈・野口克行(奈良女子大理)他4名 衛星及び地表観測で得られた日本におけるNO<sub>2</sub>季節変化の数値モデルによる比較
- P309 三浦和彦・室崎将史(東京理科大)他4名 富士山を利用したエアロゾルの粒径分布の鉛直分布観測
- P310 古賀聖治(産総研) 小笠原諸島父島で観測される巨大粒子数濃度の日変動
- P311 倉本奈津子(NICT/日本女子大)・笠井康子(NICT)他2名 アラスカ州ポーカークラットにおけるメタンの季節変動と年々変動
- P312 長田和雄(名大院環境)・林政彦(福岡大理)他5名 南極・昭和基地における粗大粒子濃度の季節変化
- P313 山崎明宏・内山明博(気象研)他2名 ADECスカイラジオメーターネットワークから得られた観測結果
- P314 財前祐二(気象研) ピン法による硫酸エアロゾル粒子を凝結核とした雲生成シミュレーション その2
- P315 大島長・小池真(東大院理)他5名 ブラックカーボンの物理化学的変容過程と混合状態を表現したモデルの開発
- P316 関口美保(海洋大工)・中島映至(東大気候システム) ナローバンド放射伝達モデルでの気体吸収の取り扱い
- P317 岩淵弘信・小林秀樹(FRCGC) 曇天大気および森林キャノピーの三次元放射伝達モデルの開発
- P318 山本浩嗣(気象庁観測部) 昭和基地における下向長波長放射による雲量推定
- P319 板野稔久(防衛大地球海洋)他2名 静止気象衛星MTSAT-1RとFY-2Cの画像を用いた立体視の試み
- P320 久保守(金沢大院自然科学)・Tuomas KARNA(HUT)他1名 自己組織化マップを用いた日本海上のNOAA衛星雲画像の分類
- P321 北村康司・中川勝広(NICT)他4名 400MHz帯ウィンドプロファイラおよびCOBRAを用いた融解層より上層における粒径分布推定手法の開発
- P322 高橋暢宏(NICT) TRMM/PRのアルゴリズムにおける融解層の取り扱いの評価
- P323 釜堀弘隆(気象庁気候情報)・井上豊志郎(気象研) JRA-25長期再解析データにおける下層雲
- P324 井上豊志郎(気象研) Pt Reyes(カリフォルニア州)における下層雲の雲パラメータと降水
- P325 古本淳一・津田敏隆(京大生存研)他2名 GPS遮蔽およびウィンドプロファイラデータを用いて水蒸気プロファイル推定を行う1次元変分手法
- P326 前坂剛・三隅良平(防災科研)他3名 MPレーダーを用いた豪雨強風監視システムの推定値と地上観測値の比較(1) -地上観測機のパフォーマンスチェック-
- P327 山内洋・鈴木修(気象研)他1名 ドップラーレーダーを用いた収束線自動検出ツールの開発 -雷雨の発生予測のために-
- P328 青梨和正・永戸久喜(気象研) 衛星搭載マイクロ波放射計データの非静力雲解像モデルへの同化法の開発(その5)
- P329 瀬古弘・別所康太郎(気象研)他3名 エアロゾンデ観測データの同化実験
- P330 清水慎吾・前坂剛(防災科研)他3名 マルチパラメータレーダーデータを用いたデータ同化手法の開発(1)-CRESSを用いた予測システムの構築-
- P331 原昌弘・齊藤和雄(気象研)他1名 全球特異ベクトルを用いたNHMによるダウンスケール予報実験(序報)(日本域を最終ノルムのターゲット域にした場合)
- P332 小池克征(いであ)・村上正隆(気象研)他6名 冬期間における気象庁非静力学モデル(JMANHM)の地上雨量評価
- P333 西垣諺人(気象庁予報) フラクタル幾何学・統計力学のアナロジーをふまえた不安定現象予測

## 大会第3日〔10月27日(金)〕11:30～12:30 ポスターセッション

( )は講演者を表す)

- P334 寺田登与徳・坪木和久(名大地球水循環) 小規模孤立地形風下に形成される湿潤対流の発生パターン
- P335 久保田拓志(JST)・重尚一(大阪府大院工)他7名 対流性降雨と層状性降雨の区別がマイクロ波降水リトリーバルに与える影響評価
- P336 藤吉康志(北大低温研)・山村育代(北大理)他1名 雨滴の最大粒径の気候学(1) - 札幌での2003年～2006年の観測から -
- P337 吉田賀(阪大院工)他3名 人工衛星 TRMM データ(PR・LIS)を用いた対流雲のパラメタリゼーション
- P338 筒井謙一(筑波大院環境科学)・木村富士男(筑波大院生命環境)他1名 落雷とGPS可降水量および降水の時空間変動
- P339 佐々浩司(高知大理)・太田衣美(高知大理院)他1名 2006年7月5日に高知県で発生した突風災害
- P340 足立アホロ・猪上華子(気象研)他2名 温暖前線に伴う強風と降雨の観測
- P341 瀬古弘(気象研)・熊原義正(大阪管区気象台)他2名 他 2003年4月8日に大阪湾付近で組織化された線状降水帯 - 移動や衰弱と環境との関係 -
- P342 佐々浩司(高知大理)・古川訓男(高知大院理) 高知県大川村に豪雨をもたらせた線状降水帯の落雷分布
- P343 河内愛子・守田治(九大院理)他1名 梅雨前線で発達するメソ擾乱の構造の研究
- P344 前田伸一郎・坪木和久(名大地球水循環) 航空機を用いて観測された梅雨前線帯の構造とそれを形成する気流場
- P345 高野功(気象庁予報) 2005/2006年冬季に急発達した南岸低気圧と上層渦位の特徴
- P346 早崎将光(環境研)・黒崎泰典(千葉大 CEReS)他6名 2006年4月8日の黄砂をもたらした前線の空間構造と時間発展
- P347 足立幸徳・木村富士男(筑波大院生命環境) 東アジアにおける低気圧活動 - NCEP/NCAR 再解析データによる解析 -
- P348 石塚暁・坪木和久(名大地球水循環) 寒気の吹き出しが弱まりつつある場において観測された線状降雪帯の構造
- P349 佐藤晋介(NICT)・久保田拓志(大阪府大)他2名 東南アジアにおける地上雨量計と衛星推定降雨量の比較(序報)
- P350 茂木耕作(IORGC)他13名 2005年6月15日に西部熱帯太平洋上で観測された北進するメソ対流系の環境場の特徴
- P351 岩崎杉紀(防衛大地球海洋)・圓山憲一(金沢大)他15名 タイで放球した Optical Particle Counter とライダーによる SVC の同時観測
- P352 宮川知己(東大院理)・高藪縁(東大気候システム)他1名 ベンガル湾上の MCS が北・東・西方向へ伝播する時の背景場の特徴
- P353 請田善行・柴垣佳明(大阪電通大)他4名 赤道気レーダーで観測された熱帯降水システムの内部構造
- P354 山根悠介(京大院理)・林泰一(京大防災研) バングラデシュにおけるメソ擾乱発生日の大気環境場の特徴について
- P355 西憲敬(京大院理)・鈴木順子(京大生存研)他2名 熱帯圏界面付近での東西風急変現象の解析
- P356 山田由貴子(北大院理)・石渡正樹(北大院地球環境)他2名 大気大循環モデルの赤道域対流圏に表れた2種類のケルビン波的シグナル
- P357 Rahmat Hidayat・木津昭一(東北大院理)他1名 Influence of the Madden-Julian Oscillation on Indonesian Rainfall Variability
- P358 那須野智江(FRCGC)他5名 全球非静力学モデルを用いた水蒸気数値実験 - 赤道波と結合した大規模雲システムの解析第2報 -
- P359 田中浩・野呂真吾(名城大) 台風の標準的経路と異常気象に関する研究
- P360 望月泰・岩崎俊樹(東北大院理) 波動平均流相互作用に基づくエネルギーとその変換項の長期トレンド～3つの再解析データの比較～
- P361 整隼人・津田敏隆(京大生存研) GPS 掩蔽データを用いた極域の大気重力波のエネルギー分布の研究
- P362 中里真久・鈴木修(気象研)他3名 レーダーと環境データを用いた竜巻とダウンバーストの発生前における識別可能性
- P363 浜田純一・森修一(IORGC)他3名 地上雨量観測に基づくスマトラ島周辺の降水日変化とその季節変化
- P364 木村仁美・里村雄彦(京大院理) モンスーン季におけるヒマラヤ南部の降水現象と擾乱に関する研究
- P365 石崎紀子・植田宏昭(筑波大院生命環境) WRF モデルに見られるチベット高気圧形成におけるインドシナ半島の地形的役割

## 大会第3日〔10月27日（金）〕 11:30～12:30 ポスターセッション

（ ）は講演者を表す

- P366 阿部学(名大院環境)・安成哲三(名大地球水循環)他1名 アジアモンスーンの季節変化におけるヒマラヤ・チベット山塊の存在の効果：夏季アジアモンスーンのオンセット-気象研究所大気海洋結合モデルによる数値実験-
- P367 佐川智孝・児玉安正(弘前大理工)他1名 RAMS を用いた SACZ の形成要因の研究(その1)
- P368 花田淳司(富山大理)・川村隆一(富山大院理工)他2名 南米大陸の標高変化がもたらすモンスーン及び南大西洋収束帯の変化
- P369 小畑淳(気象研) 北大西洋への淡水流入に対する気候炭素循環モデルの応答
- P370 荻木優佳・伊藤久徳(九大院理) 4次元の teleconnection
- P371 立花義裕(東海大/IORGC)・小木雅世(JAMSTEC) オホーツク海の海水とアムール川の淡水流入の変動が負相関になる理由は北極振動にある
- P372 田少奮(日大文理)・森田有香(都立大)他1名 モンゴルの植生活動における気候条件の影響
- P373 萩野谷成徳(気象研)・徐健青(FRCGC) NDVI から推定したチベット高原上の熱収支
- P374 昆盛太郎(筑波大院環境科学)・林陽生(筑波大院生命環境) 根圏の水分量が熱収支の季節変化に及ぼす影響
- P375 米田次郎・大場良二(三菱重工)他4名 サウジアラビアの砂漠緑化に伴う大気環境改善の研究
- P376 久保川陽呂鎮・藤原正智(北大院地球環境)他2名 全球・非静力学大気モデルを使用した対流圏界面領域の解析-水惑星実験の結果を用いて-
- P377 大楽浩司(防災科研)・黄文峰(農工研)他3名 洪水・渇水リスク評価のための領域大気・陸面・河川結合モデルの開発
- P378 西澤慶二・吉田義勝(電中研)他1名 NCAR CCSM3の長期ランに基づく日降水量極値の変化予測
- P379 庄建治朗(名工大) 古日記の天気記録による琵琶湖における18世紀以降の渇水傾向の評価
- P380 大垣内るみ(FRCGC)・阿部彩子(東大気候システム/FRCGC) 完新世中期のアフリカモンスーンとアジアモンスーンにおける海洋の役割の対比
- P381 五味千絵子・葛葉泰久(三重大生資)他1名 降水タイプに応じた降水の極値の空間的広がりに関する研究
- P382 高敷出・佐々木秀孝(気象研)他2名 MRI-RCM20km-V1版の降水ヒストグラム
- P383 遠藤洋和(仙台管区気象台)他4名 20km格子地域気候モデルによるヤマセ型低温の再現性
- P384 根本由紀子(気象予報士会) 夏の最高気温と標準偏差
- P385 関隆則(気象予報士会) 日射加熱率の緩和時間でみた、甲府における気温変化の特徴
- P386 市瀬和義(富山大人間発達科学)・木下正博(滑川高)他1名 富山湾における曇気楼の発生理由Ⅷ～定点カメラによる観測～
- P387 吉野純(岐阜大院工)・竹内紘基(出光エンジニアリング)他2名 中部地域全域を覆う333mメッシュ超高解像度風況マップの構築
- P388 小村裕子・金子大二郎(松江高専) CO<sub>2</sub>排出量に及ぼす首都圏都市気象の影響推定
- P389 栗田進(気象研)・神田学(東工大院理工) 局在するビル群直上での乱流の応答特性
- P390 藤原忠誠(北大院環境科学)・藤吉康志(北大低温研)他1名 Plume の特性と対流混合層の発達過程



## 講演者索引

## &lt;A&gt;

Abe Manabu (阿部学) P366  
 Adachi Ahoro (足立アホロ) P340  
 Adachi Sachihō (足立幸穂) P347  
 Adachi Toru (足立透) P138  
 Adhikari Nanda B. P122  
 Akiyoshi Hideharu (秋吉英治) D104  
 Amano Atsushi (天野篤) C353  
 Aoki Kazuma (青木一真) D153  
 Aoki Teruo (青木輝夫) D306  
 Aoki Yuka (青木優佳) P370  
 Aonashi Kazumasa (青梨和正) P125  
 Aonashi Kazumasa (青梨和正) P328  
 Aoyagi Toshinori (青柳曉典) P189  
 Arai Miki (荒井美紀) B204  
 Arai Yutaka (新井豊) D156  
 Arao Kimio (荒生公雄) D155  
 Arii Suguru (有井卓) A356  
 Asuma Yoshio (遊馬芳雄) A107

## &lt;B&gt;

Bessho Kotaro (別所康太郎) C302  
 Bhatt Bhuwan C164

## &lt;C&gt;

Chiba Masaru (千葉長) B105  
 Chiba Masaru (千葉長) P306  
 Chikamoto Yoshimitsu (近本喜光) C110  
 Chikira Minoru (千喜良稔) C165

## &lt;D&gt;

Dairaku Koji (大楽浩司) P377  
 Deushi Makoto (出牛真) D103

## &lt;E&gt;

Egashira Mio (江頭未央) P116  
 Eguchi Keiko (江口景子) P303  
 Eito Hisaki (永戸久喜) P133  
 Emori Seita (江守正多) B361  
 Endo Hirokazu (遠藤洋和) P383  
 Endo Nobuhiko (遠藤伸彦) P148  
 Enomoto Takeshi (榎本剛) A204

## &lt;F&gt;

Fujibe Fumiaki (藤部文昭) B304  
 Fujii Akira (藤井聡) C351  
 Fujii Takeshi (藤井健) D201  
 Fujita Mikiko (藤田実季子) C209  
 Fujiwara Chusei (藤原忠誠) P390  
 Fujiyoshi Yasushi (藤吉康志) P336  
 Fukabori Masashi (深堀正志) P117  
 Fukao Shoichiro (深尾昌一郎) B155  
 Fukuhara Tetsuya (福原哲哉) A359  
 Furukawa Norio (古川訓男) P342

Furumoto Junichi (古本淳一) P325

## &lt;G&gt;

Geng Biao (耿驃) C205  
 Gomi Chieko (五味千絵子) P381  
 Gouda Yasuhiro (合田泰弘) C203

## &lt;H&gt;

Hachisuka Takatomo (蜂須賀隆友) P180  
 Haginoya Shigenori (萩野谷成徳) P373  
 Hajime Hiroshi (一広志) C352  
 Hamada Atsushi (濱田篤) P119  
 Hamada Jun-ichi (浜田純一) P363  
 Hara Masahiro (原昌弘) P331  
 Hara Masayuki (原政之) C210  
 Hasegawa Akira (長谷川聡) B357  
 Hashiguchi Noriko (橋口典子) C106  
 Hashimoto Akihiro (橋本明弘) C154  
 Hayasaki Masamitsu (早崎将光) P346  
 Hayashi Syugo (林修吾) C162  
 Hayashi Yoshi-yuki (林祥介) A351  
 Hei Hayato (幣隼人) P361  
 Hibino Mayumi (日比野真弓) P307  
 Hina Keita (日名啓太) B363  
 Hirasawa Naohiko (平沢尚彦) D101  
 Hirenzaki Michio (比連崎路夫) D110  
 Hirosawa Manabu (広沢学) P146  
 Hirota Nagio (廣田渚郎) B202  
 Honda Meiji (本田明治) A152  
 Hori Masahiro (堀雅裕) P171  
 Horinouchi Takeshi (堀之内武) B160  
 Hoshino Makoto (星野誠) P132  
 Hoshino Shunsuke (星野俊介) C301  
 Huang Zhiyong (黄智勇) P167

## &lt;I&gt;

Ichikawa Hiroki (市川裕樹) P157  
 Ichimaru Tomoko (一丸知子) A161  
 Ichinose Kazuyoshi (市瀬和義) P386  
 Iga Keita (伊賀啓太) D206  
 Iga Shin-ichi (伊賀晋一) A302  
 Iga Shin-ichi (伊賀晋一) P176  
 Iijima Yoshihiro (飯島慈裕) A112  
 Iizuka Satoshi (飯塚聡) P172  
 Ikeda Kenichi (池田健一) P137  
 Ikeda Kohei (池田恒平) A303  
 Imamura Takeshi (今村剛) A357  
 Inaba Morio (稲葉守生) A164  
 Inatsu Masaru (稲津将) B162  
 Inoue Jun (猪上淳) A151  
 Inoue Makoto (井上誠) B201  
 Inoue Tadao (井上忠雄) D362  
 Inoue Tomotsugu (井上智亜) B106

Inoue Toshiro (井上豊志郎) P323  
 Inoue Toshiro (井上豊志郎) P324  
 Irie Hitoshi (入江仁士) D157  
 Ishida Haruma (石田春磨) P118  
 Ishiduka Satoshi (石塚暁) P348  
 Ishihara Koji (石原幸司) B305  
 Ishihara Koji (石原幸司) P179  
 Ishii Shoken (石井昌憲) D163  
 Ishikawa Yuki (石川由紀) P145  
 Ishizaka Masaaki (石坂雅昭) A102  
 Ishizaka Yutaka (石坂隆) D353  
 Ishizaki Noriko (石崎紀子) P365  
 Itano Toshihisa (板野稔久) P319  
 Ito Akinori (伊藤彰記) D109  
 Itou Haruna (伊藤春奈) P308  
 Iwabuchi Hironobu (岩渕弘信) P317  
 Iwai Hironori (岩井宏徳) D364  
 Iwamoto Katsushi (岩本勉之) A104  
 Iwanami Koyuru (岩波越) C155  
 Iwao Koki (岩尾航希) B203  
 Iwasa Yoshiharu (岩朝美晴) D205  
 Iwasaki Hiroyuki (岩崎博之) C207  
 Iwasaki Suginori (岩崎杉紀) P351

## &lt;K&gt;

Kuwagata Tsuneo (桑形恒男) D358  
 Kameda Takao (亀田貴雄) C158  
 Kanada Sachie (金田幸恵) C160  
 Kanamori Hironari (金森大成) P155  
 Kanzaki Takao (神崎隆男) P302  
 Kasai Yasuko (笠井康子) D108  
 Kataniwa Saki (片庭沙基) P149  
 Kato Teruyuki (加藤輝之) A105  
 Kato Teruyuki (加藤輝之) C202  
 Katou Yuusuke (加藤悠介) P156  
 Kawabata Hitoshi (川端一史) D354  
 Kawabata Takuya (川畑拓矢) C161  
 Kawamiya Michio (河宮未知生) B354  
 Kawamura Ryuichi (川村隆一) P368  
 Kawamura Seiji (川村誠治) D363  
 Kawase Hiroaki (川瀬宏明) C208  
 Kawatani Yoshio (河谷芳雄) B159  
 Kayahara Takahiro (栢原孝浩) P158  
 Kazaoka Ryo (風岡亮) P106  
 Khatri Pradeep D154  
 Kido Atushige (城戸敦誉) A301  
 Kikuchi Nobuyuki (菊地信行) P124  
 Kimura Fujio (木村富士男) B111  
 Kimura Fujio (木村富士男) D361  
 Kimura Hitomi (木村仁美) P364  
 Kimura Noriaki (木村詞明) B211  
 Kishore Pangaluru P160  
 Kita Kazuyuki (北和之) P304  
 Kitabatake Naoko (北畠尚子) C308

- Kitamura Misako (北村美沙子) D203  
 Kitamura Yasushi (北村康司) P321  
 Kobayashi Hiroko (小林紘子) A358  
 Kobayashi Takahisa (小林隆久) P120  
 Kochi Aiko (河内愛子) P343  
 Koderu Kunihiko (小寺邦彦) A159  
 Koga Seizi (古賀聖治) P310  
 Kohno Nadao (高野洋雄) P159  
 Koike Katsuyuki (小池克征) P332  
 Koishi Kazunari (小石和成) C105  
 Kon Seitaro (昆盛太郎) P374  
 Kondo Fumiyoshi (近藤文義) D357  
 Kozu Toshiaki (古津年章) P150  
 Kozu Toshiaki (古津年章) P151  
 Kubo Mamoru (久保守) P320  
 Kubokawa Hiroyasu (久保川陽呂鎮) P376  
 Kubota Takuji (久保田拓志) P335  
 Kuji Makoto (久慈誠) D160  
 Kunii Masaru (國井勝) P131  
 Kurahashi Haruka (倉橋永) P183  
 Kuramoto Natsuko (倉本奈津子) P311  
 Kurita Susumu (栗田進) P389  
 Kuroda Yuhji (黒田友二) D204  
 Kusunoki Kenichi (楠研一) C306  
 Kusunoki Kenichi (楠研一) D164  
 Kusunoki Shoji (楠昌司) A153
- <L>  
 Li Jingmin P110
- <M>  
 Mabuchi Kazuo (馬淵和雄) B352  
 Maeda Shinichiro (前田伸一郎) P344  
 Maeda Shuhei (前田修平) A165  
 Maesaka Takeshi (前坂剛) P326  
 Maruyama Ken-ichi (圓山憲一) P123  
 Masamura Shiro (正村史朗) D210  
 Mase Hirofumi (間瀬博文) D209  
 Mashiko Wataru (益子渉) C305  
 Masunaga Hirohiko (増永浩彦) C108  
 Matsueda Mio (松枝未遠) A163  
 Matsugatani Atsushi (松ヶ谷篤史) P126  
 Matsuzaki Kanako (松崎加奈子) P177  
 Mimura Kazuo (三村和男) A354  
 Minobe Shoshiro (見延庄士郎) B110  
 Mitsuda Chihiro (光田千紘) A361  
 Mitsuyama Kazuaki (三津山和朗) A305  
 Miura Hidekazu (三浦英和) P104  
 Miura Kazuhiko (三浦和彦) P309  
 Miyahara Saburo (宮原三郎) B158  
 Miyakawa Tomoki (宮川知己) C211  
 Miyakawa Tomoki (宮川知己) P352  
 Miyama Toru (美山透) B101
- Miyasaka Takafumi (宮坂貴文) B206  
 Miyazaki Chihiro (宮崎千尋) A154  
 Miyazaki Kazuyuki (宮崎和幸) B164  
 Miyazaki Kazuyuki (宮崎和幸) P115  
 Miyoshi Takemasa (三好建正) A205  
 Miyoshi Takemasa (三好建正) A208  
 Mizuno Hakaru (水野量) B307  
 Mizuta Ryo (水田亮) B163  
 Mochizuki Takashi (望月崇) B102  
 Mochizuki Yasushi (望月泰) P360  
 Momose Haruyuki (百瀬晴行) A201  
 Mori Masato (森正人) A156  
 Mori Masato (森正人) B208  
 Mori Takeshi (森岳史) B112  
 Moteki Quosaku (茂木耕作) P350  
 Mukougawa Hitoshi (向川均) A162  
 Murakami Kazutaka (村上和隆) P178  
 Murakami Masataka (村上正隆) C151  
 Murakami Masataka (村上正隆) C152  
 Murakami Shigenori (村上茂教) B358  
 Murata Akihiko (村田昭彦) C304  
 Muroi Chiashi (室井ちあし) A203
- <N>  
 Nagai Haruyasu (永井晴康) P175  
 Nagai Shin (永井信) P174  
 Nagano Yoshinori (永野良紀) P165  
 Nagata Hajime (永田肇) D162  
 Nagata Rena (永田玲奈) P181  
 Nagura Motoki (名倉元樹) P168  
 Nakagawa Yuka (中川由雅) D352  
 Nakai Sento (中井專人) A101  
 Nakajima Kensuke (中島健介) A309  
 Nakamura Takuji (中村卓司) B153  
 Nakano Fujiyuki (中野藤之) C307  
 Nakano Tomoko (中野智子) P173  
 Nakashima Yasuhiro (中島康裕) P154  
 Nakata Toshimi (仲田季寧) P105  
 Nakazato Masahisa (中里真久) P121  
 Nakazato Masahisa (中里真久) P362  
 Nakazawa Tetsuo (中澤哲夫) B107  
 Nakazawa Tetsuo (中澤哲夫) C101  
 Naoe Hiroaki (直江寛明) D158  
 Nasuno Tomoe (那須野智江) P358  
 Nemoto Yukiko (根本由紀子) P384  
 Ninomiya Kozo (二宮洗三) C206  
 Nishi Noriyuki (西憲敬) P355  
 Nishigaki Tsuguhito (西垣語人) P333  
 Nishii Kazuaki (西井和晃) A160  
 Nishimori Motoki (西森基貴) B309  
 Nishizawa Keiichi (西澤慶一) P378  
 Nishizawa Seiya (西澤誠也) B308  
 Nishizawa Tomoaki (西澤智明) P114  
 Niwa Yosuke (丹羽洋介) B353  
 Niwano Masanori (庭野将徳) P101  
 Noro Shingo (野呂真吾) P359
- <O>  
 O'ishi Ryouta (大石龍太) B351  
 Obata Atsushi (小畑淳) P369  
 Ogawa Yuka (小川由佳) P141  
 Ogino Shin-ya (荻野慎也) B152  
 Ogino Shin-ya (荻野慎也) P164  
 Ogohara Kazunori (小郷原一智) A360  
 Oh'izumi Mitsuo (大泉三津夫) D303  
 Ohashi Yoshitaka (大橋喜隆) P185  
 Ohgaito Rumi (大垣内るみ) P380  
 Ohno Yuichi (大野裕一) D161  
 Ohno Yuko (大野祐子) A108  
 Ohta Emi (太田衣美) P339  
 Oikawa Hiroshi (及川博史) A210  
 Oikawa Hiroshi (及川博史) A211  
 Okamoto Hajime (岡本創) C156  
 Okamoto Kozo (岡本幸三) P129  
 Omura Yuko (小村裕子) P388  
 Onishi Masanori (大西将徳) D356  
 Onishi Masanori (大西将徳) P187  
 Orikasa Narihiro (折笠成宏) P136  
 Osada Kazuo (長田和雄) P312  
 Ose Tomoaki (尾瀬智昭) B103  
 Oshima Nagao (大島長) P315  
 Otsuka Kiyotoshi (大塚清敏) D359  
 Owada Michio (大和田道雄) B301  
 Owada Michio (大和田道雄) D351  
 Ozawa Atsumasa (小澤淳真) P190
- <P>  
 Park Hotaek (朴昊澤) D304  
 Peng Xindong (彭新東) A202
- <R>  
 Rahmat Hidayat P357  
 Raschke Ehrhard B360  
 Ratnam M. Venkat C104  
 Reddy Krishna C166
- <S>  
 Sagawa Tomoyuki (佐川智孝) P367  
 Saito Atsushi (齋藤篤思) P135  
 Saito Kazuo (齊藤和雄) A207  
 Saitoh Naoko (齋藤尚子) D159  
 Saitou Makoto (齋藤誠) P188  
 Sakai Masahiro (阪井雅洋) B302  
 Sakai Tetsu (酒井哲) P113  
 Sakamoto Kei (坂本圭) D105  
 Sato Kaori (佐藤可織) C157  
 Sato Kaoru (佐藤薫) B151  
 Sato Tomonori (佐藤友徳) P103  
 Satoh Shinsuke (佐藤晋介) P349  
 Satou Kensuke (佐藤健介) C111  
 Seiki Ayako (清木亜矢子) A155  
 Seiki Ayako (清木亜矢子) C109  
 Seki Takanori (関隆則) P139

- Seki Takanori (関隆則) P385  
 Sekiguchi Miho (関口美保) P316  
 Seko Hiromu (瀬古弘) P329  
 Seko Hiromu (瀬古弘) P341  
 Seta Takamasa (瀬田孝将) P301  
 Sha Weiming (余偉明) D360  
 Shibasaki Tokiko (柴崎登紀子) P108  
 Shibata Kiyotaka (柴田清孝) B157  
 Shige Shoichi (重尚一) P152  
 Shige Shoichi (重尚一) P153  
 Shimizu Shingo (清水慎吾) P330  
 Shinoda Masato (篠田雅人) D308  
 Shinoda Yoshihiro (篠田佳宏) P305  
 Shiogama Hideo (塩竈秀夫) B355  
 Sho Kenjiro (庄建治朗) P379  
 Shoji Yoshinori (小司慎教) P130  
 Shusse Yukari (出世ゆかり) P144  
 Sueyoshi Masakazu (末吉雅和) D207  
 Sugawara Yuya (菅原祐也) P140  
 Sugimoto Norihiko (杉本憲彦) B161  
 Sugiura Konosuke (杉浦幸之助) A111  
 Sugiyama Ko-ichiro (杉山耕一朗) A353  
 Suzuki Hiroto (鈴木博人) P182  
 Suzuki Issei (鈴木一成) P109  
 Suzuki Junko (鈴木順子) C107  
 Suzuki Kazue (鈴木香寿恵) B364  
 Suzuki Mai (鈴木舞) P147  
 Suzuki Osamu (鈴木修) P128
- <T>
- Tabata Dan (田畑弾) P186  
 Tachibana Yoshihiro (立花義裕) A109  
 Tachibana Yoshihiro (立花義裕) P371  
 Tagami Yoshio (田上善夫) P184  
 Taguchi Masakazu (田口正和) P161  
 Tajiri Takuya (田尻拓也) C153  
 Takagi Masahiro (高木征弘) A304  
 Takahashi Hiroshi (高橋洋) P163  
 Takahashi Kiyotoshi (高橋清利) B104  
 Takahashi Nobuhiro (高橋暢宏) P322  
 Takahashi Yoshiyuki (高橋芳幸) A362  
 Takahashi Yukihiro (高橋幸弘) A352  
 Takano Isao (高野功) P345  
 Takashima Hisahiro (高島久洋) D107  
 Takaya Koutarou (高谷康太郎) A158  
 Takayabu Izuru (高藪出) P382  
 Takayama Yozo (高山陽三) P127  
 Takeda Shigeo (武田重夫) P134  
 Takei Nobusuke (武居信介) C354  
 Takemura Toshihiko (竹村俊彦) B359  
 Takigawa Masayuki (滝川雅之) P102  
 Tanaka Hiroshi (田中博) A157  
 Tanaka Minoru (田中実) P170  
 Tanaka Taichu (田中泰宙) D151  
 Tani Masaki (谷昌樹) C356
- Tasaka Shigeki (田阪茂樹) D102  
 Terada Masahiro (寺田昌弘) P142  
 Terada Toyonori (寺田登与徳) P334  
 Terasaki Koji (寺崎康児) P162  
 Tian Shao-fen (田少奮) P372  
 Tomikawa Yoshihiro (富川喜弘) B165  
 Tomiyama Yoshiyuki (富山芳幸) C359  
 Tsuda Toshitaka (津田敏隆) B154  
 Tsutsui Junichi (筒井純一) B362  
 Tsutsui Kenichi (筒井謙一) P338
- <U>
- Uchiyama Akihiro (内山明博) D152  
 Uematsu Hisayoshi (植松久芳) C358  
 Ueno Mitsuru (上野充) C303  
 Ukeda Yoshiyuki (請田善行) P353  
 Umemoto Yasuko (梅本泰子) P143  
 Ushiyama Motoyuki (牛山素行) C357
- <V>
- Venkatraman Prasanna P166
- <W>
- Wakazuki Yasutaka (若月泰孝) C159  
 Watanabe Akira (渡邊明) A106  
 Watanabe Masahiro (渡部雅浩) B109  
 Watanabe Shingo (渡辺真吾) B156  
 Watanabe Takahiro (渡辺高宏) A355  
 Watanabe Takashi (渡部孝史) C355  
 Wu Peiming (伍培明) C102
- <Y>
- Yamada Hiroyuki (山田広幸) D302  
 Yamada Yoshinori (山田芳則) C163  
 Yamada Yukiko (山田由貴子) P356  
 Yamaguchi Munehiko (山口宗彦) A209  
 Yamaguchi Satoru (山口悟) A103  
 Yamamoto Hirotsugu (山本浩嗣) P318  
 Yamamoto Masaru (山本勝) D301  
 Yamamoto Masayuki (山本真之) C103  
 Yamanaka Manabu D. (山中大学) A308  
 Yamanaka Manabu D. (山中大学) D208  
 Yamane Shozo (山根省三) A206  
 Yamane Yusuke (山根悠介) P354  
 Yamanouchi Akiko (山内明子) D307  
 Yamasaki Masanori (山岬正紀) C204  
 Yamashita Yousuke (山下陽介) B210  
 Yamauchi Hiroshi (山内洋) P327  
 Yamazaki Akihiro (山崎明宏) P313  
 Yamazaki Nobuo (山崎信雄) B306  
 Yamazaki Takeshi (山崎剛) D305  
 Yanagino Takeshi (柳野健) D165  
 Yasunari Teppei J. (安成哲平) P112  
 Yasutomi Natsuko (安富奈津子) B205  
 Yi Sanghun (李相勳) B207
- Yohgai Toshiroh (用具敏郎) C201  
 Yokohata Tokuta (横嶋徳太) B356  
 Yokoyama Naomi (横山直美) B209  
 Yoneda Jiro (米田次郎) P375  
 Yoshida Akira (吉田聡) P169  
 Yoshida Jun (吉田純) A306  
 Yoshida Jun (吉田純) A307  
 Yoshida Satoru (吉田智) P337  
 Yoshikane Takao (吉兼隆生) B303  
 Yoshikawa Keiko (吉川契子) D202  
 Yoshimura Hidetoshi (吉村英俊) D355  
 Yoshimura Jun (吉村純) B108  
 Yoshino Jun (吉野純) P387  
 Yumimoto Keiya (弓本桂也) P107
- <Z>
- Zaizen Yuji (財前祐二) P314  
 Zhang Daizhou (張代洲) P111  
 Zhang Yinsheng (張寅生) A110  
 Zhou Libo D106